

伝承プログラムガイド

～東日本大震災 復興の教訓から学ぶ～

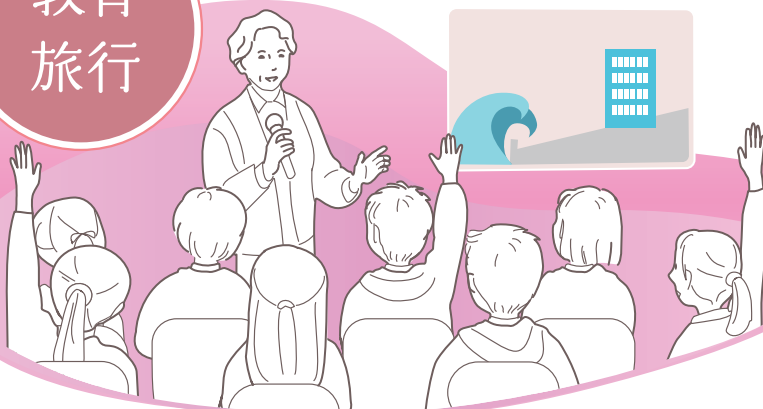
語り部



企業
研修



教育
旅行



復興庁

Reconstruction Agency

復興・創生 その先へ

はじめに

東日本大震災復興基本法第3条による基本方針「第2期復興・創生期間」以降における東日本大震災からの復興基本方針（令和7年6月20日閣議決定）では、「(3) 復興の姿の発信、東日本大震災の記憶と教訓の後世への継承」として、「(国営追悼・祈念施設) や被災各地の追悼施設、震災遺構、伝承施設等の中で連携しつつ、「学び」や「備え」を情報発信すること等により、同震災の教訓への理解を深め、防災力の向上を図る」こととしています。

こうした東日本大震災の記憶と教訓の継承、理解の促進、防災力の向上においては、多様な手法で震災の記憶と教訓を伝える地域の伝承団体が大きな役割を果たしていることから、今後東日本大震災に関心を持って被災地を訪問しようとする方々が一覧性のある被災地全体の伝承団体・伝承プログラムの情報を円滑に入手できるよう、東日本大震災から15年を迎えるにあたり本ガイドブックを制作しました。

本ガイドブックには、それぞれの伝承団体・伝承プログラムの概要や予約方法、料金等の基礎情報だけでなく、実際に体験することでどのような学びを得られるかについても盛り込んでいるため、具体的なニーズや条件に沿ったプログラムをお探しいただく際に、ぜひご活用いただければと考えております。

防災教育を目的とした教育旅行を企画されている教育機関の皆様や、復旧・復興過程における学びを活かした研修について検討されている企業・団体の皆様、その他東日本大震災に関心を持って東北地方をご訪問される皆様にとって、本ガイドブックが一助となることを願っております。

るるぶ特別編集

東日本大震災伝承施設ガイド



東日本大震災による地域の被害状況や復旧・復興の取組、防災・減災の知識等を発信する伝承施設・震災遺構を紹介した「るるぶ特別編集 東日本大震災伝承施設ガイド」（令和4年度発行・令和6年度改訂）を復興庁のホームページにて公表しています。本ガイドブックと併せて、ぜひご参照ください。

発行：復興庁
企画・編集・制作：株式会社 JTB パブリッシング



復興庁 HP

目 次

岩手県

01	一般社団法人 おらが大槌夢広場	4
02	一般社団法人 宮古観光文化交流協会	6
03	三陸鉄道（震災学習列車）	7
04	特定非営利活動法人 吉里吉里国	8
05	いのちをつなぐ未来館（株式会社かまいし DMC）	9
06	キャッセン大船渡（防災観光アドベンチャー「あの日」防災学習プログラム）	10
07	一般社団法人 マルゴト陸前高田	11
08	一般社団法人 陸前高田市観光物産協会	12
09	NPO 法人 体験村・たのはたネットワーク	13
10	新生やまだ商店街協同組合	13
11	宝来館	14
12	一般社団法人 邑サポート	14
13	一般社団法人 たまご村	15

宮城県

14	一般社団法人 雄勝花物語	16
15	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	18
16	一般社団法人 南三陸町観光協会（南三陸311メモリアル）	19
17	南三陸ホテル観洋（語り部バス）	20
18	社会福祉法人 南三陸町社会福祉協議会	21
19	大川伝承の会	22
20	石巻市震災遺構門脇小学校	23
21	一般社団法人 はまのね	24
22	一般社団法人 女川町観光協会	25
23	キボッチャ（貴凛庁）	26
24	株式会社 木の屋石巻水産	27
25	公益社団法人 3.11メモリアルネットワーク	28

26	震災遺構 仙台市立荒浜小学校	29
27	蒲生なかの郷愁館	30
28	やまもと語りべの会 (山元町震災遺構 中浜小学校)	31
29	株式会社 GRA (ジー・アール・イー)	32
30	気仙沼震災復興語り部ガイド (KESENNUMA BASE CAMP)	33
31	海の見える命の森 (株式会社阿部長商店南三陸ホテル観洋)	33
32	佐良スタジオ	34
33	みやぎ東日本大震災津波伝承館	34
34	MORIUMIUS	35
35	SAY'S 東松島	35
36	JR フルーツパーク仙台あらはま	36
37	せんだい3.11メモリアル交流館	36
38	津波復興祈念資料館 関上の記憶	37
39	一般社団法人 ふらむ名取 (関上震災を伝える会)	37
40	いわぬま震災語り部の会 (千年希望の丘交流センター)	38

福島県

41	一般社団法人 あすびと福島	39
42	OWB 株式会社 (旧 株式会社小高ワーカーズベース)	41
43	東日本大震災・原子力災害伝承館	42
44	いわき震災伝承みらい館	43
45	相馬市観光協会	44
46	浅野燃糸株式会社	44
47	NPO 法人 富岡町3・11を語る会	45
48	東京電力廃炉資料館	45
49	株式会社 J ヴィレッジ	46

地域で活動する伝承団体	47
-------------	----

メールアドレスの●は@に変換してご利用ください。

被災・復興を“自分事”として考えられるツアーを展開



▲大槌町内のフィールドワーク



いわて震災伝承施設・団体ガイド IWATE/TSUTAERU HP

▲ワークショップ



▲グループディスカッション

プログラム紹介

Program

❖ 決断のワークショップ

決断のワークショップは、被災時や復興において大槌町民が直面した「正解のない課題」について、参加者それぞれが「自分ごと」として話し合い、「結論」を出す過程を体感することで、復興の難しさや、決断に必要な覚悟を知る。

話し合いの題材は、発災後の大槌町で議論になった「防潮堤の高さをどうするか」、「被災した町役場庁舎を残すか残さないか」などのテーマについてである。実際に大槌町では、どういった結論に至ったのか、なぜその決断に至ったのか、その決断によって現在どのような影響があるのかについても話を聞くことで、事例としての理解を深めることができる。

❖ 大槌町語り部ガイド

東日本大震災津波。あの時何が起き、その後の復興で人は何を思い、考え、生きてきたのか。大槌の町をガイドと周りながら、生の声を聞くことができる。

「あなたならそれを防げたのか?」、「あなたなら逃げられたのか?」など、「あなたならどうする?」の視点をもってもらうツアーを展開することで、自分事として考えることができる。

上記以外にも、元大槌町長や元自治会長などが講話をする「講話型プログラム」もある。また、薪割り体験、坐禅、地引網体験、宿泊などを組み合わせることも可能。

👉 学びのポイント



「意見を一つにまとめていかなければ先に進めない」状況の中で、グループのメンバーに自分の意見を発信し、それぞれの異なる考え方をまとめていく経験を通じて、様々な意見や考え方を理解しながら、自らの思いを伝えるスキルを身につけることができる。

正解がない課題に対して、集団で答えをまとめていくことの難しさや、そのような中で決断を下さなくては行けないのがトップでありリーダーであることを体感することができる。

おらが大槌夢広場・神谷未生さんのコメント

震災伝承とは、震災を学ぶのではなく「震災から学ぶ」ことであり、学んだ内容を持ち帰って、自身の行動に生かすことにその意義があると考えています。大槌の震災を知るだけではなく、記憶に定着させるために、学んだことを言語化してもらうプログラムを提供しています。

何をどう伝えるのか、どのような目的でお越しいただくかによってボールの投げ方を変えているため、各団体様から訪問目的についてお伺いし、話し合っってプログラムを組んでいます。

企業研修や教育旅行の受入実績も多数あり、リピーター率は7割以上となっています。ワークショップや体験活動との組み合わせも可能ですのでお気軽にご相談下さい。



参加者の声

授業では、ほとんど発言しない生徒までが、全員発言し、グループディスカッションに参加していたのに驚いた。
(高校教師)

修学旅行の初日での研修であったにもかかわらず、事後の感想で一番多く語られていた。行く前は、中学生には難しいかと思っていたが、逆にこの年代でこのような体験ができたことはとても良かったと感じている。
(中学校教師)

テレビやインターネットで見たのとは全く違った。被災した人、一人一人に思いがあって、だから復興は難しいんだと感じた。
(高校生)

自分で決めるということがこんなに難しいと思わなかった。
(高校生)

一般社団法人 おらが大槌夢広場

申し込み方法	メール：mioinusa@gmail.com 電話：080-8209-2330 FAX：050-3145-2685 所在地：岩手県上閉伊郡大槌町末広町9-29
申し込み〆切	受入の7日前まで
所要時間	プログラムにより異なる（要相談）
受入可能人数	1人～240人（バス6台まで）
年間受入人数	年間1,500人程度受入
活動期間・時間	通年9時～17時（要相談）
休日	お盆、年末年始、3月11日を含むその前後
案内方法	バス、車、徒歩
研修料金	・語り部ガイド 1名につき1,100円（税込） ※5,500円より ・ワークショップ等 5,500円/1名（税込）
その他	英語での対応可能。 雨天決行だが、下記のような場合などは催行しないこともある。 ・公的機関などからツアー中止要請があった場合。 ・荒天や地震などによる、注意報・警報が発令され、危険と判断された場合。
ホームページ	http://www.oraga-otsuchi.jp/

一般社団法人 宮古観光文化交流協会



一般社団法人宮古観光文化交流協会 HP

▲ガイドの様子



一般社団法人宮古観光文化交流協会 HP

▲震災遺構たろう観光ホテル



一般社団法人宮古観光文化交流協会 HP

▲過去の津波の水位がわかる

プログラム紹介

Program

震災遺構たろう観光ホテルにて、津波到来時にホテルの社長が撮影した津波の脅威が伝わる映像を、目の前の現在の風景と比べながら見ることができる。その他、景勝地である三王岩等も回ることで、海と共存する意味を考えることができる。

歴史的に津波が多く、巨大な堤防を築くなど、先進的な防災に関する取組を行っていた「津波防災の町」であったはずの田老で、なぜ多くの人が犠牲になったのか。その教訓について、町を巡りながら話を聞き、学ぶことができる。

学びのポイント



津波映像を見ることができるホテルの震災遺構をはじめ、万里の長城と称されていた防潮堤、17メートルの津波の高さを示す製氷貯氷施設、町の各所に整備された津波避難路など町全体が防災博物館のような田老のまちづくりの考え方や避難行動の重要性を学ぶことができる。

学ぶ防災ガイド・佐々木純子さんのコメント

昔から津波が多いことで有名で、津波と共に生きていくというメッセージが多々残された田老の歴史を学ぶことで、防災意識の向上に繋がればと考えています。津波の恐ろしさだけでなく、海の美しさや恵みについても知っていただけたら幸いです。

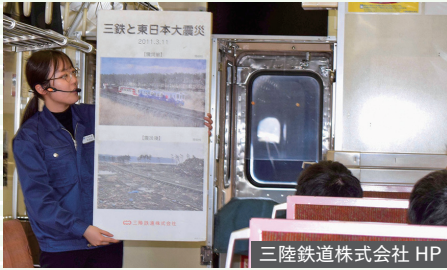
参加者の声

「津波防災の町」である田老における被害や教訓について伺い、知るだけでなく自身の今後に活かすことが重要だと感じた。
(社会人)

一般社団法人 宮古観光文化交流協会

申し込み方法	メール：manabo●kankou385.jp 電話：0193-77-3305 FAX：0193-65-7501 所在地：岩手県宮古市田老2丁目5の1
申し込み〆切	当日でも空いていれば可能 連絡必要
所要時間	・通常コース 60分 ・エココース（体験コース）90分～120分
受入可能人数	・通常コース バス6台まで ・エココース バス6台まで
年間受入人数	年間約11,000人程度受入（昨年度）
活動期間・時間	4月1日～10月末（9時～16時）、11月1日～3月末（9時～15時30分）
休日	年末年始 12/30～1/3まで
駐車場	あり
研修料金	・通常コース：1～9名 4,000円 10名以上 6,000円 ・エココース（体験コース）：1～9名 10,000円 10名以上 12,000円
その他	2026年度 ガイド料金値上げ予定
ホームページ	https://kankou385.jp/special_kiji/4642/

三陸鉄道（震災学習列車）



▲社員による語りの様子



▲震災学習列車外観



▲視察研修の様子

プログラム紹介

Program

列車に乗車して地域の風景を眺めながら、三陸鉄道沿線の市町村が、震災によってどのような被害を受け、15年経過した今、どのような復興を遂げたのかに関して、地域に密着した鉄道会社ならではの具体性を持った解説を聞くことができる。

震災の被害の恐ろしさだけでなく、それを乗り越えるために沿線地域が頑張ってきた様子や、まちづくりの工夫・特徴、住民の姿などについて学ぶことで、将来災害に遭ったときに自分が何をすべきか、前向きに考えることができる。

学びのポイント



鉄道の特性を活かした“移動しながら”の学習によって、様々な地域の様子を知ることができ、自分たちが暮らす地域で起こりうる災害や、防災の重要性、命を守ることについて考える機会を得ることができる。

三陸鉄道・千代川らんさんのコメント

震災学習列車は、東日本大震災での被害状況や街の復興の様子を知っていただき、身の回りの災害や防災の重要性について改めて考えていただきたいという想いで運行を始めました。「今」だからこそ見える景色を現地で体感していただきたいと思っています。

参加者の声

震災での体験談は心に迫ってくるものがありました。このことをより多くの人に伝え、機会がある度に考える事の大切さを感じました。（高校教員）

三陸鉄道（震災学習列車）

申し込み方法	メール：dantai●sanrikutetsudou.com 電話：0193-71-1170 FAX：0193-71-1200 所在地：岩手県宮古市宮町一丁目1-80
申し込み〆切	乗車希望日の1ヶ月前まで
所要時間	乗車区間により異なる（例 鵜住居駅－宮古駅：約75分）
受入可能人数	1名～200名まで ※車両により座席数が異なる
年間受入人数	およそ7,000人受入
活動期間・時間	9:00～17:30
休日	年中無休
駐車場	駐車場有（台数は駅により異なる）、大型バス乗り入れ可 ※詳細は問い合わせ
料金	一般車両 50,300円～
その他	企業向けの視察研修プログラムもある。 詳しくは三陸鉄道総務部（電話：0193-62-8900）まで要問合せ。
ホームページ	https://www.sanrikutetsudou.com/

特定非営利活動法人 吉里吉里国



吉里吉里国提供

▲薪割り体験



一般社団法人 大槌町観光交流協会 HP

▲防災食づくり体験



吉里吉里国提供

▲ツリークライミング体験

プログラム紹介

Program

震災時、前代表が眠れない夜に焚火をしたことで心が落ち着き、森を活用して生き延びてみせるという思いが生まれたことで、当団体が発足し、未来に残す森づくりが始まったことについて、映像や紙芝居などにより、話を聞くことができる。

自分で薪割りを行い、薪をつかってご飯を炊いてみるという限られた資源で試行錯誤する「防災食づくり体験」のプログラムを提供している。また、薪をつかったピザづくり体験やツリークライミング体験などのプログラムも提供している。

学びのポイント



震災時のように自分で割った薪でご飯を炊いてみる体験を通じて、災害時に生き延びる力を育むことができる。薪をつかったピザづくり体験やツリークライミング体験など、薪や森の魅力や価値を体感することができる。

吉里吉里国・松永いづみさんのコメント

震災について語るというよりも、震災の教訓を未来へつなぐ活動を続けています。薪を見ても火を連想しない子どもも増えていますが、ここでは火起こしを体験することも可能です。薪の新たな価値を示す取組も行っています。

参加者の声

震災当時の話を聞くことや薪割りを体験を通じて、電気、ガス、水道を当たり前利用できる日常生活の尊さを痛感しました。（大学生）

特定非営利活動法人 吉里吉里国	
申し込み方法	メール：info●kirikirikoku.org 電話：0193-43-1018 FAX：0193-43-1018 所在地：岩手県上閉伊郡大槌町吉里吉里3-10-6
申し込み〆切	受入の1週間前まで（希望日を複数提示）
所要時間	薪割り＋震災講話 1時間30分～、＋防災食づくり体験 3時間～
受入可能人数	60人弱（25名以上は3時間～）
年間受入人数	年間 800人程度受入
活動期間・時間	通年 9時～15時
休日	土・日曜・祝日、お盆、年末年始、他
駐車場	あり
研修料金	薪割り＋震災講話 10人以下10,000円（10人以上の場合、1人当たり1,000円） ＋防災食づくり体験 1人1,600円～（税別）
その他	希望時間、年代、内容によって料金が異なるので要相談。人数の多い学校の場合、他の事業者の体験との組み合わせ・ローテーションも可能。
ホームページ	https://kirikirikoku.org/

いのちをつなぐ未来館 (株式会社かまいしDMC)



いのちをつなぐ未来館提供

▲館内語り部の様子



いのちをつなぐ未来館提供

▲施設外観



いのちをつなぐ未来館提供

▲現地体験プログラム

プログラム紹介

Program

館内語り部では、釜石市や鶴住居町での被害や、当時の出来事と教訓、防災教育の成果について学び、将来の災害にどのように備えるべきか考えることができる。また、自分の防災リュックの中身を考えるワークショップも開催している。

鶴住居で多くの方が亡くなった一方、ほとんどが助かった小中学校の生徒達が避難した道を歩き、当時の出来事を体験するプログラムや、震災直後に状況設定されたケースワークとまち歩きを併せて行う、復興まちづくり研修等も行っている。

学びのポイント



「津波てんでんこ」等の事前の防災教育や避難路の整備が効果を発揮した経緯、施設の名称や簡易的な避難訓練により誤解が生まれ多くの方が亡くなった「防災センター」の話を知ること、正しく訓練を実施することの重要性等を学び、防災意識を高めることができる。

いのちをつなぐ未来館・川崎杏樹さんのコメント

震災の伝承だけでなく、今後起こる災害にどう備えていくか、という未来の話をしています。災害はいつ起こるかわかりませんが、きちんと備えれば助かることができるので、この体験をきっかけに少しでも生活の中で防災を意識いただければ幸いです。

参加者の声

釜石市内の学校で行われている防災教育について話を聞き、命に関わるものを楽しく学ぶというのが、目から鱗だった。
(学生)

いのちをつなぐ未来館 (株式会社かまいし DMC)

申し込み方法	メール：tomosu●dmo-kamaishi.com 電話：0193-27-5666 所在地：岩手県釜石市鶴住居町4-901-2
申し込み〆切	受入の1週間前まで
所要時間	1時間半コース、2時間半コース等 ※プログラムにより異なる
受入可能人数	30人まで ※プログラムにより異なる
年間受入人数	年間290団体 (2024年度実績)
活動期間・時間	9時30分～17時30分 ※冬季(11月～2月) 9時30分～17時
休日	毎週水曜日・年末年始
駐車場	あり
料金	・入館料無料 ・1時間半コース(3つのコースから1つ選択) 1,000円 ※プログラムにより料金は異なる
その他	オンライン語り部あり、web 予約あり
ホームページ	https://unosumai-tomosui.jp/tsunami-memorial-hall/

キャッセン大船渡 (防災観光アドベンチャー「あの日」) 防災学習プログラム



▲防災観光アドベンチャー「あの日」を体験する中学生



▲「あの日」パンフレット



▲クイズと体験談のスマホ画面の一例

い
き
る
知
恵
自
分
に
ま
か
さ
す
る

プログラム紹介

Program

スマートフォンで街中に設置されたQRボックスを読み取り、「わかれ道」のクイズに答えながら、緊急避難場所である神社に30分以内に到着することを目指すゲームによって、地震津波発生から高台への避難までを疑似体験することができる。商店街の方々が、被災経験や教訓について語る人

物としてスマホ上に登場するほか、実際に会って話が聞けるオプションプログラムもある。ニーズに合わせた事前・事後学習により、行くだけで終わらずに気づきを定着させることができる。防災功労者内閣総理大臣表彰などを受賞。

学びのポイント



「避難の最中、目の前に歩けなくなったおばあさんがいたときに、助けるかどうか」など、正解・不正解では割り切れない出来事に直面した際の自身の選択について考えることで、他人事として話を聞くだけでは実感できない、災害現場での葛藤を体験することができる。

キャッセン大船渡・千葉隆治さんのコメント

キャッセン大船渡独自のスマートフォンを使ったプログラムにより、各自のペースでクイズに悩み、教訓を学び、実際に体を動かして避難することで、迅速な行動の必要性、災害時の判断の難しさ、葛藤を、自分事として考えてもらえたらと思います。

参加者の声

実際に選択肢に悩みながら逃げることで、ただ地図を眺めたり、話を聞くだけでは想像できない部分まで考えることができた。
(学生)

キャッセン大船渡 (防災観光アドベンチャー「あの日」 防災学習プログラム)

申し込み方法	https://kyassen.co.jp/pre_anohi/ (お問い合わせフォームからアクセス) 電話・FAX: 0192-22-7910 所在地: 岩手県大船渡市大船渡町字野々田12-33
申し込み〆切	受入れの1ヶ月前まで
所要時間	120分 (ゲーム前の説明、ゲームプレイ、振り返りを含む) 時間の短縮は応相談
受入可能人数	10人~200人
年間受入人数	年間600人程度
活動期間・時間	9時~18時
休日	不定休 ※キャッセン大船渡の定休日 (土日祝、年末年始) も予約対応可能
駐車場	あり
料金	一般団体価格 1,650円/人 (税込) 防災教育旅行価格 1,320円/人 (税込) ※学校単位で申し込んだ場合に適用。北海道・東北6県の場合は、1,210円 (税込) 研修行程の中で東日本大震災津波伝承館を訪問する場合は220円 (税込) 割引
その他	スマートフォンやタブレットの準備が必要 (要相談)
ホームページ	https://kyassen.co.jp/、https://kyassen.co.jp/pre_anohi/

一般社団法人 マルゴト陸前高田



一般社団法人マルゴト陸前高田 HP

▲震災遺構から学ぶ



一般社団法人マルゴト陸前高田 HP

▲10m かさ上げされたまちを散策



一般社団法人マルゴト陸前高田 HP

▲遊漁船体験

プログラム紹介

Program

個々の訪問団体のニーズに応じ、陸前高田ならではの防災学習や自然体験、地域交流や歴史学習、民泊などの幅広いコンテンツから、オリジナルの研修プログラムをコーディネートしてもらうことができる。

10m 嵩上げされた新しい市街地での地域の方々との交流や、地域の課題に対する行政と市民の声のギャップを踏まえた合意づくりに係るワークショップ、市内の事業状況を踏まえた新規事業プランの立案など、多様なコンテンツを提供している。

学びのポイント



穴埋めクイズを始めとした主体的に動いて学ぶ震災学習とセットで、陸前高田市、三陸を実際に訪れないと出会うことのできない人々との交流や、自然体験等を通じ、受け身の視察やスキルアップの研修にとどまらない、自ら考えて生きる力を養うための学びを得ることができる。

一般社団法人マルゴト陸前高田・伊藤雅人さんのコメント

来訪される方々に合わせたオーダーメイドの研修プログラムを提供する中で、信用を得ることや行動をすることの大切さについて伝えていきます。陸前高田だけでなく、近隣の市町村と組み合わせた研修を実施することも可能ですので、ご相談いただければと思います。

参加者の声

陸前高田の良さや伝統に技術やエンターテインメント等の要素を加え、人々を引き付ける考え方が面白く、ワクワクした。刺激のある研修内容で、新しいことを始めたいという気持ちが湧いてきた。(社会人)

一般社団法人 マルゴト陸前高田

申し込み方法	メール：info●mrgt.or.jp 電話：0192-22-8354 所在地：岩手県陸前高田市米崎町高畑150-101
申し込み〆切	実施日の約2ヶ月前程度
所要時間	体験コンテンツによる(※)
受入可能人数	80~150名程度 左記人数以上の場合も対応可能な場合があるため、要相談。
年間受入人数	年間3,000人程度
活動期間・時間	通年 10時~17時
休日	不定休
駐車場	体験場所によって大型バス1~5台程度
研修料金	人数はHP参照、料金は要相談。
ホームページ	http://marugoto-rikuzentakata.com/ http://marugoto-rikuzentakata.com/contents (※)

一般社団法人 陸前高田市観光物産協会



一般社団法人陸前高田市観光物産協会 HP



一般社団法人陸前高田市観光物産協会提供



一般社団法人陸前高田市観光物産協会提供

▲陸前高田の魅力を伝えるパークガイド

▲パークガイドの様子

▲震災遺構内部見学の様子

プログラム紹介

Program

高田松原津波復興祈念公園パークガイドは、東日本大震災の教訓と陸前高田市の魅力を伝えるために、2021年夏に新たに始まったガイドサービスである。

高田松原津波復興祈念公園内を陸前高田市観光物産協会から認定を受けた個性豊かな地元住民

が案内する。

『奇跡の一本松』をはじめ、パークガイドの同伴を条件に内部見学が可能な『気仙中学校』、『旧道の駅高田松原（タピック45）』など、公園内に残る『震災遺構』を中心に回りながら、ガイドの解説を聞くことができる。

学びのポイント



貴重な津波災害による震災遺構の見学を通じて、津波の恐ろしさや災害の現実を知り、災害を自分ごととして考えるきっかけとする。

また、復興した現在の姿を見ることで、被災から復興に至るまでの歩みを感じることができる。

高田松原津波復興祈念公園 パークガイドのコメント

公園内を一緒に歩きながら、震災のこと、いまのすがた、この場所に込められた想いをお伝えしています。ご自身や大切な人を守るために何ができるかを考えるきっかけになれば幸いです。復興の歩みの途中にある今の姿も感じていただけたらと思います。

参加者の声

遺構の内部は貴重な経験だった。奇跡の一本松や復興の姿から、多くの人の力によって現在があることを知ることができた。
(社会人)

一般社団法人 陸前高田市観光物産協会

申し込み方法	メール：rikutaka-kankou●crest.ocn.ne.jp 電話：0192-54-5011 F A X：0192-54-5013 所在地：岩手県陸前高田市高田町字並杉300番地2 まちの縁側
申し込み〆切	受入れの2週間前まで（HPの専用申込フォームから申し込み）
所要時間	約60～120分 ※コースにより異なる
受入可能人数	最大180名程度まで
年間受入人数	年間約8,000名程度受入
活動期間・時間	9時～18時（冬季は17時まで）
休日	年末年始
駐車場	あり（高田松原津波復興祈念公園・道の駅高田松原内）
料金	詳細な料金はHP参照
その他	全て徒歩でのご案内
ホームページ	https://takanavi.org/shinsai/

NPO 法人 体験村・たのはたネットワーク

プログラム紹介

体験型観光に力を入れる本団体の「大津波語り部」では、発災前から今までの村の変遷や、避難生活、支援への思い、教訓等について、村内の沿岸部を巡りながら村民の生の声を聞くことができる。



学びのポイント

村民が多くの犠牲を被って得た教訓を学ぶことで、災害の脅威だけでなく支援や絆の温かさなどを実感することができる。



体験村・たのはたネットワーク提供

▲何年経っても、東日本大震災の事を語り継がなければならない。普通の地域住民の被災経験を通じて、一人でも多くの命を守りたい

NPO 法人 体験村・たのはたネットワーク

申し込み方法	メール：taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp 電話：0194-37-1211 所在地：岩手県下閉伊郡田野畑村北山129-10 北山崎ビジターセンター内		
申し込み〆切	受入前日17時まで（当日応談可）	所要時間	60分
受入可能人数	語り部1人あたり～15人	年間受入人数	年間600人程度受入
活動期間・時間	9時～17時	休日	年末年始
駐車場	あり	料金	2,500円 詳細は HP 参照
ホームページ	https://tanohata-taiken.jp/		

新生やまだ商店街協同組合

プログラム紹介

山田町特産品のおやつや海の幸をつまみながら、震災当時の様子や、駅を中心につくられたコンパクトシティなどの復興まちづくり、未来の災害への備え等について、地元商店街の語り部の話を聞くことができる。



山田町観光協会 HP

▲震災語り部が案内する山田の街



学びのポイント

山田町が震災を経てどのように変化したのか等について、震災前から変わらない町の食の魅力と併せて学ぶことができる。

新生やまだ商店街協同組合

申し込み方法	電話：0193-65-7901（山田町観光協会） またはホームページからお問い合わせ		
申し込み〆切	1週間前まで	所要時間	1時間～1時間30分
受入可能人数	最大80名程度	年間受入人数	2024年度754名、2023年度1,300名
活動期間・時間	通年（冬季は16時まで）	休日	なし
駐車場	商店街内50台、 近隣の公園駐車場20台	料金	ガイド1名につき5,000円 （ただし、学生は3,500円）
ホームページ	https://iwatetabi.jp/volunteerguide/9293/		

case
11

岩手県

宝来館

プログラム紹介

津波に飲まれ九死に一生を得た経験や、自主的に作った避難路で命が助かり、今も整備に取り組んでいる話など、長年まちの復興に尽力する元女将から、釜石・大槌の震災と復興に関する報告を聞くことができる。



宝来館 HP

▲岩崎元女将による語りの様子



学びのポイント

旅館を避難所にした話や避難路整備に取り組む話等を聞くことで、有事の地域内の支え合いの大切さを学ぶことができる。

宝来館

申し込み方法	メール：houraikan●gmail.com 電話：0193-28-2526 所在地：岩手県釜石市鶴住居町20地割93-18		
申し込み〆切	受入の1週間前まで	所要時間	約1時間
受入可能人数	～50人	年間受入人数	年間500人程度受入
活動期間・時間	11時～15時	休日	年末年始
駐車場	あり（20台分）	料金	宿泊者は無料、日帰り利用の場合は要相談
ホームページ	https://houraikan.jp/		

case
12

岩手県

一般社団法人 邑サポート

プログラム紹介

「イコウェルすみた」展示棟は、震災当時の木造仮設住宅の外観や内装を再現しており、震災当時の後方支援活動の様子を紹介している。当時、仮設住宅のコミュニティ支援をしていた団体職員による有料ガイドもある。



邑サポート 提供

▲視察研修対応の様子



学びのポイント

東日本大震災後に住田町が実施した後方支援活動や仮設住宅の整備の取組などについて学ぶことができる。

一般社団法人 邑サポート

申し込み方法	メール：u.sprt.sumita●gmail.com 電話：070-2021-6142（年末年始を除く平日9時～17時） 所在地：岩手県気仙郡住田町世田米本町31-2		
申し込み〆切	受入の14日前まで	所要時間	1時間（オプション込みの場合2時間）
受入可能人数	～10人（目安）	年間受入人数	年間120人程度受入（実績） （2年半で施設全体累計来場者7,000人）
活動期間・時間	通年 10時～18時	休日	月、年末年始
駐車場	普通車7台等	料金	5,500円 / 回
ホームページ	https://www.icowell-sumita.com/ https://www.tohokukanko.jp/manabi/attractions/detail_1011584.html		

プログラム紹介

東日本大震災で建てられた仮設商店街において、全国で唯一、個人で払い下げを受けて運営されている経緯をはじめ、事前復興による商店街活性化やコミュニティ活動について、話をきくことができる。



学びのポイント

将来的な運営を見据えて仮設商店街が検討された事例から、先を見据えて復興事業を検討することの意義について学べる。



たまご村提供

▲たまご村

一般社団法人 たまご村

申し込み方法	メール：info●tamagomura.jp 電話：0192-47-3287 所在地：岩手県陸前高田市高田町字大隅93-1		
申し込み〆切	受入の10日前まで	所要時間	90分程度
受入可能人数	10人～50人 (50人以上要相談)	年間 受入人数	年間300人程度受入 2020年度～2024年度：受入93回、視察者1,690人
活動期間・時間	休日以外で要予約： 9時～18時	休日	年末年始（12月29日～1月3日）
駐車場	乗用車：35台 大型バス：2台	料金	基本料金20,000円（税込）+ 食事1,100円（税込）/人
ホームページ	https://www.tamagomura.jp/		

住民主体による復興まちづくりが学べるコミュニティーガーデン



雄勝花物語提供

▲雄勝ローズファクトリーガーデン



雄勝ローズファクトリーガーデン HP

▲ボランティア体験



雄勝花物語提供

▲ガーデン内でのレクチャーの提供

プログラム紹介

Program

◆ ガーデンの視察とレクチャーの提供

震災により壊滅状態となった石巻市雄勝町において、「花と緑の力」で復興するために、被災した住民が多様な主体と連携しながら地域の拠点となる雄勝ローズファクトリーガーデンをつくる取組を14年以上継続的に展開してきた経緯や、移転元地を利活用する「雄勝ガーデンパーク事業」を官民連携で立ち上げた経緯と今後の展望についてレクチャーを提供。

雄勝ローズファクトリーガーデンの園内の案内では、津波で倒壊した民家から回収した屋根材の雄勝石スレートをガーデニングハウスに活用した経緯や、復興のシンボルとしてオリーブの栽培に挑戦した経緯など、ガーデンづくりの経緯や復興への想いについて、話をきくことができる。

◆ ボランティア体験の受け入れ

ボランティア体験では、ガーデンの除草、施肥、整備などを体験できる。

◆ 防災教育プログラム

東日本大震災の津波に関する防災教育や、南海トラフ想定地震津波や首都直下地震に対応した防災教育について、映像とスライドによるレクチャーを受けることができる。

雄勝小学校跡地の現地案内では、大津波警報10mが発表された中、校庭に待機していた児童40名と教職員14名が住民の呼びかけで裏山に避難した際の避難行動について学ぶことができる。

学びのポイント



コミュニティの拠点となるガーデンをつくる取組についてレクチャーを受けることで、「移転元地の利活用」という前例のない地域課題に対して、どのような方法で解決しようとしているのか、その方法論や、外部支援者および行政との連携の重要性について学ぶことができる。

ガーデンのボランティア体験を通じて、復興の取組に関わることの充実感が体感できる。

防災教育のレクチャーや語り部案内などから、災害時に命を守るための教訓を学ぶことができる。

雄勝花物語・徳水博志さん・利枝さんのコメント

雄勝ローズファクトリーガーデンは、「花と緑のあふれた美しい空間で、来訪者をあたたかく迎え、誰もが心地よくゆったりと過ごせる癒しの空間づくり」を行っています。ボランティア体験や防災教育プログラムでは、「命の大切さ」、「人とつながり希望を紡ぐ」、「みんなで作るお庭」という3つの価値を重視しています。

被災直後は喪失感を感じていましたが、受け身で支援を受ける立場から転換して能動的・主体的に復興に立ち上がるときに、人とのつながりや地域との関係性が再構築され、自分自身が癒やされるという体験をしました。ガーデンづくりのボランティア体験を通じて、復興に関わることの充実感を感じていただけたらと思っています。



写真提供：宮城県

参加者の声

物の豊かさではなく人とのつながりを感じたときに人は生きていけるという徳水さんの言葉が脳裏に焼き付いている。教育の核心はまさに人とのつながりに焦点を当てることなのではないかと考えさせられた。マイナスの体験から目をそらすことなく、しっかり向き合うことで乗り越えさせていく教育の方法や考え方は、日常の生徒指導等にも生かせることだと感じた。(教員)

地域の復興における「人の力」の大きさを改めて実感した。(大学生)

町を変えるためには、強い信念と創造性が求められることを感じた。(大学生)

一般社団法人 雄勝花物語	
申し込み方法	メール：hirotoku3920●voice.ocn.ne.jp 電話：090-9037-4593 F A X：0225-98-5039 所在地：宮城県石巻市雄勝町字味噌作34-2
申し込み〆切	受入の14日前まで
所要時間	ガーデンの視察とレクチャーの提供 1時間 ボランティア体験 1時間～2時間 防災教育プログラム 1時間～3時間
受入可能人数	ガーデンの視察とレクチャーの提供は10人～100人（3クラス） ボランティア体験は10人～100人（3クラス） 防災教育プログラムは10～80人
年間受入人数	年間1,000人程度受入
活動期間・時間	通年 10時～16時（要相談）
休日	毎火曜日、年末年始
駐車場	あり（大型バス2～3台）
研修料金	ボランティア体験は1人100円
その他	ボランティア活動の準備物：軍手、作業着、運動靴や長ぐつ、タオル 天候次第では中止の場合あり。 ボランティア活動では、出発時に地元の社会福祉協議会でボランティア保険に加入が必要。 昼食が必要な場合は、お弁当を提供できる地元商店を紹介することも可能。
ホームページ	https://ogatsu-flowerstory.com/

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館



日本経済研究所撮影

▲語り部の様子



気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館HP

▲旧気仙沼向洋高校



気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館提供

▲津波で車が校舎に流された

プログラム紹介

Program

震災遺構「旧気仙沼向洋高校」を含む伝承館を回りながら、展示物と併せて、当時の被害や気仙沼地域の地理・歴史、語り部本人の経験について話を聞くことができる。また、地元の中高生も語り部として活動している。

本伝承館では、地域防災や防災教育など、各分野の専門家による知見の提供や事例紹介を行う「防災セミナー」や、伝承館での見学内容を振り返り、自分の生活に置き換えて理解を深める「ふりかえりワークショップ」なども行っている。

学びのポイント



震災遺構や施設の展示物について、避難所に避難した後に家を見に戻ったことで亡くなった方が多かった等のエピソードや、がれき処理の裏話などの地元の方ならではの語りと併せて見学することで、より自分事として学び、防災意識を高めることができる。

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館・近藤公人さんのコメント

来館いただいた方には、いつどこでの災害が起こるかわからないので、避難先を家族と話し合っ決めて、一年に何回か訓練してもらいように伝えています。震災のことはもちろん、気仙沼の歴史や暮らしについても知っていただければと思います。

参加者の声

語り部の方々のお話を聞いて改めて地震の怖さを実感しました。(中学生)
津波の被害の様子を映像や校舎などから知ることができました。(中学生)
今日の体験を通していかに自然災害が恐ろしいものだったということをあらためて実感した。自分だけでなく未来のために伝えていきたい。(高校生)

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館

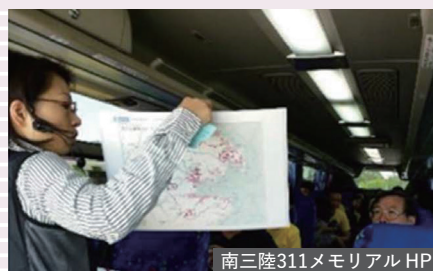
申し込み方法	メール：info●kesenuma-memorial.jp 電話：0226-28-9671 F A X：0226-28-9675 所在地：宮城県気仙沼市波路上瀬向9-1
申し込み〆切	受入れの10日前まで
所要時間	・語り部ガイド 約90分 ・防災セミナー 約60分～約90分 ・ふりかえりワークショップ 約60分
受入可能人数	1名から120名程度（100名以上は要相談）
年間受入人数	年間約50,000名程度受入
活動期間・時間	9時30分～17時（冬季は16時まで）
休日	毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館） 年末年始（12月29日～1月4日）
駐車場	あり ※無料駐車場完備
料金	語り部ガイド 学校教育活動：3,000円（1～20名） 一般：6,000円（1～20名）
ホームページ	https://www.kesenuma-memorial.jp/



▲まちあるき語り部の様子



▲ラーニングプログラム



▲語り部から震災体験を体感

プログラム紹介

Program

まちあるき語り部では、震災遺構の旧防災対策庁舎を間近で見ながら、現在の姿と震災前の街並みを写真を見比べながら解説を受けることで、東日本大震災で起こったこととその教訓について、五感で感じながら学ぶことができる。

南三陸311メモリアルで行われるラーニングプログラムでは、住民の証言映像を見ながら、随時周囲の人たちと、もし自分がその場にいたらどう考えて行動するかを話し合うことで、より自分事として自然災害と向き合うことができる。

学びのポイント



津波ですべてが流された場所につくられたまちや残された遺構を見て、悲しみの底から前を向いて生きてきた人々の生き様に触れるだけではなく、そこで発見した気づきを、次の災害や自分の人生にどう生かしていくかについて、考えるきっかけを得ることができる。

南三陸町観光協会・畠山興斗さんのコメント

発災当時、自分は5歳で保育所にいて、先生の判断で裏山に避難しましたが、道中で津波を目にして自然災害の恐ろしさを実感しました。若い世代の語り部が少ない中「記憶を持って伝えられる最後の世代」として震災の教訓を伝えています。

参加者の声

被災体験も踏まえた報道されていない当時の様子について伺い、実際に見て、聞かないとわからないことが多いと感じた。
(社会人)

一般社団法人 南三陸町観光協会 (南三陸311メモリアル)

申し込み方法	メール：m311m●m-kankou.jp 電話：0226-28-9215 FAX：050-3397-1726 所在地：宮城県本吉郡南三陸町志津川字五日町200番地1
申し込み〆切	受入れの一週間前まで 早めに要相談。
所要時間	語り部による学びのプログラム 約2時間～2時間半 (震災講話60分+バス視察60～90分)
受入可能人数	10名～
活動期間・時間	(3月～11月) 9時～16時 (12月～2月) 9時～16時
休日	毎週火曜日 年末年始 (12月29日から翌年1月3日まで)
駐車場	あり
料金	語り部による学びのプログラム ・震災講話+バス視察 ※会場料別途発生 学生：20名まで19,800円 (21名以上の場合 1名毎に990円追加)
その他	「オンライン語り部」「ワークショップ」等も実施している
ホームページ	https://m311m.jp/

南三陸ホテル観洋（語り部バス）



南三陸ホテル観洋 HP



南三陸ホテル観洋 HP



南三陸ホテル観洋 HP

▲語り部バス

▲震災遺構高野会館

▲語り部が世界へ情報発信

プログラム紹介

Program

バスで「高野会館」や「旧防災対策庁舎」等のまちの震災遺構などを回りながら、ホテルのスタッフによる語りを聞くことで、ただ見て回るだけでは想像することが難しく、知ることができない貴重な実体験・教訓を学ぶことができる。

語り部バスの取組は、震災直後に、町への来訪者に対して、被害の大きかった沿岸部の道案内をバスに乗って説明しながら行っていたことをきっかけに始まったものであり、震災後から南三陸に移ったスタッフも語り部として活躍している。

学びのポイント



建物から逃げようとした人達を職員が止め、屋上に避難したことで命が守られた「高野会館」の話や、校舎の屋上ではなく高台まで避難したことで命が助かった「戸倉小学校」の話などを現場で聞くことで、実感を伴って震災について考えることができる。

南三陸ホテル観洋・阿部憲子さんのコメント

「千年に一度の災害は、千年に一度の学びの場」であると考えています。震災当時に生まれていなかった方など、災害を経験していない方々に、実際に景色を見て学んでいただき、風化させないために周囲の人たちに語り継いでいただけたら幸いです。

参加者の声

友人、家族にも勧めたい 家族と話し合うきっかけになった。
是非この語り部バスは続けていただきたい。
生きたかった人たちの分まで一生懸命生きようと思った。

南三陸ホテル観洋（語り部バス）

申し込み方法	メール：ホームページのお問い合わせフォームより 電話：0226-46-2442（南三陸ホテル観洋代表） F A X：0226-46-6200 所在地：宮城県本吉郡南三陸町黒崎 99-17
申し込み〆切	受入れの1日前まで 宿泊の場合、出発日前日の夜9時までにフロントに申し込みが必要。
所要時間	（通常コース）約60分（高野会館特別コース）約90分
受入可能人数	1名～要相談
年間受入人数	年間18,000人程度受入
活動期間・時間	（通常コース）8時45分～9時45分（高野会館特別コース）10時15分～11時45分
休日	2027年1月5・6・7・8日、2月3・4・18・19、3月16・17日 ※休館日のため
駐車場	あり
料金	通常コース：大人（中学生以上）500円、子供（小学生以下）250円 高野会館特別コース：大人（中学生以上）1,000円、子供（小学生以下）500円
その他	宿泊の予定がない場合でも電話予約が可能（8時45分の便のみ）
ホームページ	https://www.mkanyo.jp/

社会福祉法人 南三陸町社会福祉協議会



社会福祉法人南三陸町社会福祉協議会 Facebook

▲結の里での語り部活動



社会福祉法人南三陸町社会福祉協議会 HP

▲結の里（外観）



社会福祉法人南三陸町社会福祉協議会 HP

▲施設外観

プログラム紹介

Program

「結の里」において、南三陸町社会福祉協議会の職員による語り部プログラムが行われており、東日本大震災発災から今日に至るまでの地道な被災者支援の積み重ねによる地域づくりや、コミュニティ形成のノウハウについて学ぶことができる。

自身も被災した職員の方々が、延べ100万回以上の戸別訪問を通じて住民との信頼関係を構築し、ユニークな「住民主体」のまちづくりを実践するまでのプロセスについて、実際に訪問を行った方々から当時の思いも含め、話を聞くことができる。

学びのポイント



辛いときでも笑顔を絶やさず訪問を継続し、被災住民の言葉に耳を傾け続けたことで、それぞれの状況にあわせた役割づくり・居場所づくりを行ってきた事例について学ぶことで、相手の立場に立って、真に必要なことを一緒に考える重要性と社協活動の根っこが見える。

南三陸町社会福祉協議会・高橋吏佳さんのコメント

私たちは、地域住民の主体的な関わりにこだわって、コミュニティの再生や住民同士のつながりづくり等を行ってきました。この経験が今後、平時の地域福祉・地域づくりの基盤や、非常時への備えとして活かされることを願い、視察対応を行っています。

参加者の声

地域の「やりたい」という思いを「まずはやってみよう」と形にしていく姿勢に温かさを感じ、社協ならではの魅力だと思った。(学生)

社会福祉法人 南三陸町社会福祉協議会

申し込み方法	メール：mssk1100●minamisanriku-syakyo.or.jp 電話：0226-29-6452 FAX：0226-46-5158 所在地：宮城県本吉都南三陸町志津川字天王山38-152
申し込み〆切	受入の1ヶ月前まで
所要時間	・語り部のみ 1時間 ・語り部+ワークショップ 2時間 ※その他要望に応じて対応
受入可能人数	一度に30人（入れ替え制可） ※最小2人から30人 ※30人以上の場合は会場も含め要相談
年間受入人数	330名程度
活動期間・時間	通年 8時30分～17時
休日	土・日・祝および年末年始（12月29日～1月3日） ※休日でも要望に応じて可能な限り対応
駐車場	無料あり 大型バス乗り入れ可
料金	1人あたり300円 資料およびカフェ飲み物付
その他	地域住民との交流や役職員研修の場として活用可
ホームページ	https://www.minamisanriku-syakyo.or.jp

大川伝承の会



▲フィールドワークの様子



▲大川小学校外観



▲語り部によるガイドの様子

プログラム紹介

Program

北上川河口近くに位置し、東日本大震災の津波により児童74名・教職員10名が犠牲となった宮城県石巻市立大川小学校において、校門、校舎、裏山などのポイントを巡りながら、震災前の地域や学校の様子、震災当日の行動についての解説を聞く。

海から3.7kmの学校を襲った河川津波の動きと、津波が到達するまでに時間や情報、助かる手段があったにも関わらず命を救えなかった事実をふまえ、災害時の行動につながる事前の備えの重要性について考察する。

学びのポイント



大川小学校で起きた出来事を辿りながら、あの日までの風景、学校生活を想像し、それが失われた事実に向き合い、自分事にする。パニックの中での判断の難しさを知り、事前の備えを本気で考える。自然の力、組織、学校、家族、ふるさと、命…ふだんは見えにくい大切なことに気づく。

大川伝承の会・佐藤敏郎さんのコメント

大川小学校の校歌のタイトルは「未来を拓く（ひろく）」です。ここは悲しいことが起きた場所ですが、未来を拓く何かが始まる場所になってほしいと願っています。今日も世界中で元気な「ただいま」が響き渡りますように。

参加者の声

大川小学校での学びは、過去を悼む場にとどまらず、未来の防災をどう築くかを考えるための始まりの学びの場として、大変貴重な経験になりました。
(学生)

大川伝承の会

申し込み方法	3.11メモリアルネットワーク HP https://311support.com/training/okawa-guide から申請 電話：0225-98-3691 (3.11メモリアルネットワーク) FAX：0225-98-3692 (3.11メモリアルネットワーク)
申し込み〆切	できるだけ1週間以上前まで
所要時間	60分
受入可能人数	ガイド一人あたり 1名～80名
年間受入人数	年間16,000人程度受入
活動期間・時間	通年日没まで 展示室は9時～17時
休日	水曜日閉館（トイレ使用可）
駐車場	あり
料金	基本的には1名～10名：7,000円 11名～：大型バス1台で10,000円（バス1台あたり10,000円ずつ追加）
その他	※詳しい所要時間、人数、料金等は要相談。 ※大川伝承の会への問合せは okawa.densho@gmail.com まで
ホームページ	https://www.facebook.com/ookawadensyo/ （直接窓口） https://311support.com/training/okawa-guide

石巻市震災遺構門脇小学校



▲遺構（本校舎）外観



▲体育館に展示された被災車両



▲解説員も務める館長のガイド

プログラム紹介

Program

津波と火災の被害を受けた本校舎を震災遺構として保存した門脇小学校で、体育館に展示された被災車両や石巻全体の被害概要の説明を受けた後、遺構や展示館を解説員の案内で巡り、被災の実態と地域の状況を学ぶプログラム。

渡り廊下の空間に展示された絵と詩、実際に入ることができる応急仮設住宅、自然の再生と循環をテーマにした映像などを通じて、津波火災の痕跡だけでなく、避難行動や日常生活の変化、自然との共生について多面的に考えることができる。

学びのポイント



解説ガイドを通じ、津波到来時に高い階へ逃げる垂直避難が火災を伴った際に必ずしも通用しない等の津波火災の教訓に加え、日頃の訓練や備えを前提とした判断の大切さへの気づきのほか、展示を通じて地域の暮らしの知恵や自然との共生について触れることができる。

石巻市震災遺構門脇小学校・ リチャード・ハルバーシュタット館長のコメント

震災の事実を悲惨な記録で終わらせるのではなく、どう生き延びるか、どう備えるかを学ぶ場所でありたいと考えています。「自然との共生」や、命の大切さを来館者一人ひとりに感じてほしいと願っています。

参加者の声

津波と火災の跡が残る校舎や、仮設住宅を実際に目にして実感がわき、日ごろから避難先や経路を具体的に決めておくことが、命を守る鍵になると感じました。（高校生）

石巻市震災遺構門脇小学校

申し込み方法	メール：yoyaku●shinomakiikou.net 電話：0225-98-8630 FAX：0225-98-8632 所在地：宮城県石巻市門脇町四丁目3番15号
申し込み〆切	来館予定の1週間前まで
所要時間	60分コース 90分コース
受入可能人数	ガイド1名につき1～20名 4グループ（最大80名）まで同時進行可能
活動期間・時間	9時～17時（最終入館16時） ※11月～1月 最終入館 15時30分
休日	毎週月曜（祝日の場合は翌日） 年末年始（12/29～1/3） 特別開館日 毎月11日、6/12、9/1、11/5 ※特別開館日が月曜の場合、翌日は休館
駐車場	あり（普通車32台、障がい者等優先3台、バス乗降スペース2台） ※バスを駐車する場合は「石巻南浜津波復興祈念公園の門脇駐車場」を利用
料金	・解説ガイド：60分コース・90分コース共通（高等学校向けの場合） 1名～10名：4,000円 11名～20名：6,000円 ・英語版解説ガイド 1名～10名：6,000円 11名～20名：8,000円
その他	当日に人数が増えた場合は、ガイドの増員不可
ホームページ	https://www.ishinomakiikou.net/kadonowaki/

一般社団法人 はまのね



一般社団法人はまのね / 浜の暮らしのはまぐり堂 HP

▲古民家での講話



一般社団法人はまのね提供

▲漁業体験



一般社団法人はまのね提供

▲蛤浜（はまぐりはま）

プログラム紹介

Program

「半日視察プラン」では、東日本大震災の津波で壊滅し、人口5人にまで減少した石巻市蛤浜（はまぐりはま）地区を再生するための取組についての講話をきくことや、はまのねの施設（ツリーハウスなど）を見学することができる。

「1泊2日研修プラン」では、漁業体験、蛤浜の取り組みについての講話、ディスカッションなど希望に応じてアレンジ。夕食はスタッフと一緒に囲む。夕食後は、宿泊施設「高見」に泊まる。

学びのポイント



震災で壊滅的な被害があった蛤浜地区の再生に向けた取組の経緯の話をきいたり、漁業体験など浜の暮らしを体験したりすることで、人のつながりや文化を守っていく考え方や自然とともに生きる考え方を学ぶことができる。

はまのね・亀山貴一さんのコメント

体験や研修を通して、県内外・都市部の人たちにも海と山の現状・課題と、地域の価値を具体的なかたちで共有し、都市と地方それぞれが特性を活かし、共創しながら課題解決に取り組む新しい時代の創造を目指しています。

参加者の声

体験を通して、「手間暇かけて丁寧に人とのつながりや暮らし、文化を守る」というエッセンスが心身にも馴染むようになってきました。（社会人）

一般社団法人はまのね / 浜の暮らしのはまぐり堂

申し込み方法	メールフォーム： https://www.hamaguridou.com/お問合せ/ 電話：0225-90-2909 所在地：宮城県石巻桃浦字蛤浜18
申し込み〆切	受入の30日前まで
所要時間	半日視察プランは2時間程度、一泊二日研修は14時から翌日の11時
受入可能人数	半日視察プランは1～10名程度、一泊二日研修は2名以上～5名以内
年間受入人数	年間500人程度受入
活動期間・時間	通年 9時～17時（要相談）
休日	要相談
研修料金	半日視察プランは、要相談 1泊2日研修は、2名の場合、一人あたり35,000円、 3名以上の場合、一人あたり30,000円
ホームページ	https://www.hamaguridou.com/

一般社団法人 女川町観光協会



一般社団法人女川町観光協会 HP

▲商店街（シーパルピア女川）



一般社団法人女川町観光協会 HP

▲まち歩き案内（旧女川交番）



一般社団法人女川町観光協会 HP

▲まち歩き案内（女川駅展望台）

プログラム紹介

Program

女川町では、震災後、「海とともに生きていく」ために、まちと海の眺望を遮る防潮堤を造らず、減災の視点から居住地の高台移転が実施された。まち歩き案内では、女川の復興まちづくりの経緯を現場を見ながら学ぶことができる。

震災遺構の旧女川交番では、横倒しになった建物から津波の威力を感じることができる。まち歩きでは、子どもの意見も聞きながら、震災遺構を残すことになった経緯についても聞くことができる。

学びのポイント



東日本大震災で甚大な被害がありながらも、「海とともに生きる」ことを選び、防災だけでなく、にぎわいや景観なども考慮したまちづくりの考え方や、行政や民間事業者、大人から子どもまでが意見を出し合い、協働してまちをつくることの意義を学ぶことができる。

女川町観光協会・阿部真紀子さんのコメント

女川の「今」を紹介しています。企業研修や教育旅行では、要望にあわせて、町民と接する機会を提供することも可能です。来訪者と町民の関係を築くことができるような視察や研修を行うことを心がけています。

参加者の声

高い防潮堤をあえて造らず「海と共生する」道を選んだ人々の決意に触れ、教科書では学ぶことのできない「生きた学び」が得られた。（高校教師）

一般社団法人 女川町観光協会

申し込み方法	メール：seapal●onagawa.org 電話：0225-54-4328 FAX：0225-54-3361 所在地：宮城県牡鹿郡女川町女川2-16-5
申し込み〆切	受入の14日前まで
所要時間	まち歩き案内は、団体向け80分、少人数・家族向け60分。
受入可能人数	1人～40人
年間受入人数	年間 3,000人程度受入
活動期間・時間	通年 10時～16時（最終受付は15時）
休日	年中無休
駐車場	あり
研修料金	まち歩き案内は、団体11,000円（税込）、家族・少人数3,300円（税込）。
その他	団体向けのまち歩き案内は、20名を超える場合1名につき550円（税込）。 少人数向けのまち歩き案内は、3名を超える場合、1名につき1,100円（税込）。 上記のほか、講話、バス車窓案内、商店街でのインターンシップなども実施可能。
ホームページ	https://www.onagawa.org/

キボッチャ（貴凛庁）



日本経済研究所撮影

▲廃校を活用



貴凛庁提供

▲訓練体験中の様子



貴凛庁 HP

▲企業研修風景

プログラム紹介

Program

◆ KIBOTCHA REAL SURVIVAL

「想定外」を生き抜く、文明と野生を融合させた生存実習。東日本大震災の被災地であり、未来のインフラ実験場でもある KIBOTCHA を拠点に、「水・食料・装備」を自ら調達（ハック）する。

竹での食器作り、メタルマッチでの火起こし、ロープワーク、そしてイカダによる無人島上陸ミッションへ。教科書的な防災ではなく、テクノロジーと原始的な知恵を駆使してライフラインを再構築する、実践型サバイバル・プログラム。

学びのポイント



「被災地＝悲しみの場所」ではなく「再生の最前線」として捉える。インフラが断絶した世界（Day Zero）で、文明の利器と野生の知恵を組み合わせる「サバイバル思考」と「開拓者精神（パイオニア・スピリット）」を身体で習得する。

貴凛庁株式会社代表取締役・三井紀代子さんのコメント

元自衛官の経験と、被災した旧野蒜小学校の記憶を未来へ繋ぐため KIBOTCHA を開業しました。「守られる側」から「守る側」へ。ここでのリアルな生存実習を通じ、どんな時代も生き抜く強さを持ち帰ってください。

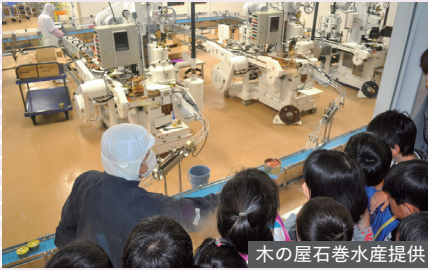
参加者の声

ただの訓練ではなく、本気のサバイバルでした。仲間と火を起こし、イカダで海を渡った経験は、一生の自信になりました。

キボッチャ（貴凛庁）

申し込み方法	メール：info●kibotwcha.com 電話：0225-25-7319 F A X：0225-25-7309 所在地：宮城県東松島市野蒜字亀岡80
申し込み〆切	受入の7日前まで
所要時間	プログラムによる（例：1泊2日 KIBOTCHA 子供防災教育キャンプ）
受入可能人数	5人～40人
年間受入人数	・防災教育プログラム 2019～2024年8,682人、2025年1,182人、累計457社、累計来場者は180,000人以上
活動期間・時間	4月～10月
休日	毎週火曜日 ただし、プログラムは受入可能。
駐車場	あり、大型バスの乗り入れ可
料金	約20,000円～100,000円/人
ホームページ	https://kibotcha.com/ 、 https://kirintyou.co.jp/

株式会社 木の屋石巻水産



木の屋石巻水産提供

▲工場見学



木の屋石巻水産提供

▲直売所



木の屋石巻水産提供

▲工場外観

プログラム紹介

Program

震災による津波で工場が全壊、東京の経堂商店街の人々が泥まみれになった缶詰を洗浄し、「希望の缶詰」として義援金のお礼として交換したところ約22万缶が完売となり、復興の足掛かりとなった経緯をまとめた映像を視聴することができる。

「震災前から組織に存在する課題を解決できていなければ、会社が存続しない」という他地域の災害復興の教訓をもとに、復興段階で見学もできて直売所も併設した外に開いていく工場を検討した経緯について、話を聞くことができる。

学びのポイント



木の屋石巻水産の復興とあわせて組織の課題を解決する取組の話をきくことで、産業復興の考え方の一例を学ぶことができる。また、「希望の缶詰」の映像を視聴することで、平常時の様々なつながりが災害時の助けにつながる場合があることを学ぶことができる。

木の屋石巻水産・松友倫人さんのコメント

「他にない美味しいものをつくる」という思いをもって先代たちが取り組んできたことが、震災時の「希望の缶詰」につながったと感じています。多くの方に訪れていただき、当社のことを知っていただけたら嬉しいです。

参加者の声

復興に向けた取組のお話や奇跡の缶詰のお話から、会社のあるべき姿を考える続けることの重要性や様々なつながりの重要性を感じた。
(社会人)

株式会社 木の屋石巻水産

申し込み方法	電話：0229-87-5593 所在地：宮城県遠田郡美里町二郷南八丁2-2
申し込み〆切	受入の7日前まで
所要時間	40～80分
受入可能人数	10人～40人（目安）
年間受入人数	年間1,500人程度受入
活動期間・時間	通年 10時～16時（要相談）
休日	月曜日、お盆、年末年始
駐車場	あり
研修料金	工場見学および映像視聴は無料
その他	タイム缶作り体験も可能（1人800円） 直売所では、鯨大和煮缶詰などの買い物を楽しむことができる
ホームページ	https://www.kinoya.co.jp/

公益社団法人 3.11メモリアルネットワーク



3.11メモリアルネットワーク HP

▲語り部と歩く3.11



3.11メモリアルネットワーク HP

▲語り部と歩く3.11



3.11メモリアルネットワーク HP

▲アプリツアー（2つの伝承施設を結ぶ）

プログラム紹介

Program

宮城県石巻市の震災遺構門脇小、みやぎ東日本大震災津波伝承館、MEET 門脇、南浜津波復興祈念公園の周辺で避難ルートを追体験する「語り部と歩く3.11」のほか、大川小での語り部との組み合わせ、人材研修ワークショップ、オリジナルツアーなどの多様なプログラムを提供。

- ・語り部と歩く3.11（復興祈念公園と震災遺構）
- ・企業研修「リーダーシップ、危機管理」
- ・AR アプリ活用フィールド防災ガイド
- ・語り部（石巻・オンライン・派遣）
- ・岩手・宮城・福島における防災教育、人材研修コーディネート

学びのポイント



- ・石巻市南浜・門脇の3つの伝承施設からの学びを提供
- ・311の避難路や高台からの全景、生死の境を体感
- ・「避難の連鎖」を活かすワークショップ
- ・子どもの命を真ん中にした「未来を拓く」ガイド
- ・災害ボランティアや危機管理、リーダーシップなどの多様な学び

公益社団法人 3.11メモリアルネットワーク・中川政治さんのコメント

「ここにきて、初めてわかった」と訪れて下さる方々に感謝申し上げます。

あの日、「いってらっしゃい」と送り出し、「ただいま」が聞けずにあります。皆さんが戻られた「ただいま」の後に、少しでも未来の命を守る行動につながれば幸いです。

参加者の声

施設だけではもったいなく、少し高台に登るだけで全然違う。救えた命があったこと、しっかりと心に焼き付け、伝えていきたい。

公益社団法人 3.11メモリアルネットワーク

申し込み方法	WEB サイト：https://311support.com/training メール：info●311support.com 電話：0225-98-3691
申し込み〆切	開催1週間前
所要時間	30分～1.5日 ※プログラムによって選択いただけます
受入可能人数	1名～300名（オリジナル研修・ツアー） ※プログラムにより選択
年間受入人数	石巻市南浜・門脇でのプログラム：5,624名 出張講演：3,081名 オンライン：5,504名
活動期間・時間	受付：9時～18時 年末年始以外無休
休日	年末年始
駐車場	バス駐車可能（施設への予約必要）
研修料金	お一人当たり550円（高校生以下、30分）～ ※プログラムにより選択
その他	AR アプリ活用プログラムが、2015年に総務省の地方創生に資する「地域情報化大賞」特別賞受賞
ホームページ	WEB サイト：https://311support.com/training Facebook: https://www.facebook.com/ganbappe/

震災遺構 仙台市立荒浜小学校



大阪・関西万博 復興庁ポータルサイト



震災遺構 仙台市立荒浜小学校



復興庁撮影

▲職員による校舎内解説の様子

▲津波の痕跡が残る1階廊下・教室

▲屋上から望む荒浜地区と海

プログラム紹介

Program

津波で2階まで浸水した校舎を当時の姿のまま保存した震災遺構。職員の案内で教室や廊下に残る痕跡や写真、証言映像をたどりながら、発災から避難、救助までの経過と地域の被害を学ぶことができる。

屋上からは、かつて住宅が並んでいた荒浜地区と海との位置関係が分かる。震災前の町並を再現したジオラマや展示を通じて、発災時の出来事や避難の様子を体験しながら、防災・減災について考えることができる。

学びのポイント



津波で校舎の2階まで浸水しながらも、教職員と地域住民の判断で屋上へ避難した320人の命が守られた経過を、被災の痕跡と証言映像、住宅街のジオラマなどを通じて具体的に学び、自分の地域での避難行動やまちづくりを考えるきっかけとする。

震災遺構 仙台市立荒浜小学校・川村孝男さんのコメント

荒浜を津波を連想させる怖い場所と思う方は少なくありません。しかし、自然に恵まれ、にぎわいのある荒浜を取り戻そうとする住民もいます。ここが防災・減災を考えるきっかけとなることで、明るい未来につながり、希望が持てる場所となることを願います。

参加者の声

津波の怖さを実感し、震災当時の映像や校長先生の証言から、冷静に指揮を執るには、やはり計画的に避難訓練をすることが大切だとあらためて感じました。
(社会人)

震災遺構 仙台市立荒浜小学校

申し込み方法	メール：arahama●sendai311-memorial.jp 電話・FAX：022-355-8517 震災遺構仙台市立荒浜小学校 管理事務所 電話：022-214-1117 まちづくり政策局防災環境都市推進室 所在地：宮城県仙台市若林区荒浜字新堀端32-1
申し込み〆切	館内は自由に見学できる。案内を希望する場合は事前に管理事務所へ要連絡。
所要時間	30分～90分
受入可能人数	1人～150人程度まで
年間受入人数	2024年度受入実績：140,000人
活動期間・時間	9時30分～16時（7・8月は9時30分～17時まで）
休日	毎週月曜日及び第4木曜日（祝日を除く）、年末年始（12月29日～1月4日）
駐車場	あり
料金	無料
その他	津波の爪痕が残る校舎を震災遺構として公開し、津波の脅威や教訓を後世に伝えていく。
ホームページ	https://arahama.sendai311-memorial.jp/index.html

蒲生なかの郷愁館



蒲生なかの郷愁館提供



蒲生なかの郷愁館提供



蒲生なかの郷愁館提供

▲郷愁館内での展示

▲発電所内ガイド案内の様子

▲展示室ガイド案内の様子

プログラム紹介

Program

津波被災により災害危険区域に指定された蒲生なかの地区。集団移転跡地で新たに操業したバイオマス発電所の中にある「蒲生なかの郷愁館」では、地域の歴史・特色や震災のこと、蒲生干潟を中心とした自然環境、そしてこの場所の新たな

役割となったエネルギーと発電のことについての一体的な展示を行っている。郷愁館の展示室は予約不要で見学できるほか、事前予約制の団体向けプログラムとして発電所内と展示室のガイド付き案内を提供している。

学びのポイント



隣接する「なかの伝承の丘」とともに訪れることで、津波で流された地域と愛されながら閉校となった中野小学校のことを知ることができる。地域と自然災害と再生可能エネルギーとの関わり合いは、社会を多面的に捉えるきっかけとなる。

蒲生なかの郷愁館・下山館長のコメント

震災の話だけでなく、この地域の歴史や地理、エネルギーや環境も含めて考えられる施設です。震災で大きな被害を受けたこの地区の「これまで」を振り返り学びながら、発電所を含めたこの地区が担う「これから」を考えていただければ幸いです。

参加者の声

津波で全て流されてしまった蒲生なかの地区の震災前後の記憶だけでなく、蒲生干潟の環境やバイオマスエネルギー等持続可能な地域づくりについても多くの学びがあった。
(研修参加者)

蒲生なかの郷愁館	
申し込み方法	メール：info●mmb-energy.jp 所在地：宮城県仙台市宮城野区蒲生4-1-1（杜の都バイオマス発電所 管理棟1階）
申し込み〆切	郷愁館見学は予約不要／団体・発電所見学は随時予約制
所要時間	郷愁館：20～30分／発電所：60～90分
受入可能人数	10～40人（団体案内の目安）
年間受入人数	年間1,000人程度受入
活動期間・時間	通年 10時～16時
休日	毎週月曜日（祝日の場合はその翌日） 祝日の翌日（土・日曜日、祝日を除く） 年末年始、臨時休館日
駐車場	近隣の駐車場利用可。団体見学は要相談。
料金	郷愁館：無料 発電所：500円/人
その他	説明者による案内が必要な場合は、要相談。
ホームページ	https://mmb-energy.jp/kyoshukan/

やまもと語りべの会 (山元町震災遺構 中浜小学校)



▲校舎外観



▲津波痕跡が残る教室・廊下



▲語り部による解説の様子

プログラム紹介

Program

津波で2階まで浸水した山元町震災遺構中浜小学校を会場に、かさ上げした校地や円柱の柱など防災を意識した校舎の工夫と、屋上への避難により90人全員の命が守られた経過を、語り部や職員のご案内で学ぶことができる。

北校舎と南校舎の中庭構造や体育館が果たした役割、津波が曲がりながら流れた痕跡、映像や体験型展示を通して、津波の特性と時間を基準とした避難方針の背景を、具体的に考えることができるプログラム。

学びのポイント



津波を想定した校舎のかさ上げや、事前に確認されていた避難マニュアルを踏まえつつ、刻々と変化する状況の中で、より可能性の高い行動を瞬時に判断することの重要性について、震災の教訓に基づき、災害時の対応や事前の備えの具体的な考え方を学ぶことができる。

やまもと語り部の会・井上剛さんのコメント

展示を見るだけでは伝わらない、避難判断や備えの重要性を、実際の校舎を歩きながら人の言葉で伝えることに意味があります。ここで災害を「自分ごと」として考えるきっかけを持っていただけたらと思っています。

参加者の声

校舎の敷地かさ上げなどが事前に行われていたことに加え、建物構造の把握や事前の準備、当日の判断が避難の結果を左右すると知り、自校でも改めて避難方針を確認したいと思いました。
(教員)

やまもと語りべの会 (山元町震災遺構 中浜小学校)

申し込み方法	HP から申込書をダウンロード 電話：0223-23-1171 FAX：0223-23-1172 メール：nakahamaguide@gmail.com 所在地：宮城県山元町坂元字久根22-2
申し込み〆切	原則として見学予定日の20日前まで
所要時間	45分～90分
受入可能人数	1名～100名程度（100名を越す場合は、要相談）
年間受入人数	入館者数：20,023名 語りべの会受入人数：5,185名（いずれも2024年度）
活動期間・時間	9時30分～16時30分（最終入館16時）
休日	町内ガイドは不定休通年 遺構は年末年始、毎週月曜休館（月曜祝日の場合は翌日休館）
駐車場	あり（大型バス3台、自家用車32台（うち第2駐車場10台）、ロードバイク用スタンド）
料金	震災遺構敷地内見学 語り部ガイド料：5,000円／班（1班1名～20名までとして班編成）
その他	小学校・中学校・高等学校向けに語り部ガイドプランを用意
ホームページ	https://www.town.yamamoto.miyagi.jp/site/ruins-nakahama/

株式会社 GRA (ジー・アール・エー)



株式会社 GRA (ジー・アール・エー) HP

▲イチゴを栽培しているハウス



株式会社 GRA (ジー・アール・エー) HP

▲ハウスに併設しているショップ



株式会社 GRA (ジー・アール・エー) HP

▲説明の様子

プログラム紹介

Program

津波被害を受けたいちごの産地・宮城県山元町で、震災後のボランティア活動から、新たな事業を立ち上げ出発した GRA の取組について、実際のハウス栽培の様子や直売所・カフェなどの現場を見学しながら学ぶことができるプログラム。ICT を活用したスマート農業の取組から、高付加価値なブランド・加工品開発、新規就農支援ま

で、一連のビジネスモデルを現場で学ぶことができる。教育旅行団体については、希望に応じて見学後にワークショップを実施することが可能なほか、新規就農やスマート農業への参入を検討している農業者・企業は、設備投資や収支モデル、人材確保・育成などについて具体的なアドバイスを受けることができる。

学びのポイント



もともとイチゴの産地であったという地域性と ICT などの先端技術の両方を活かし、津波で大きな被害がありながらも栽培技術の高度化や高付加価値なブランド・加工品づくりなどに取り組んだ産業復興と、その後の地域づくりの考え方の一例について学ぶことができる。

GRA 観光部副部長・山根弘陽さんのコメント

当社は震災後、瓦礫撤去などのボランティアを続ける中で、「雇用や産業を一緒につくってほしい」という声をいただき、この町の特産だったいちごを軸に起業しました。いちご狩りやカフェ、首都圏や海外への出荷、新規就農支援などを通じて、町の地元の方々が誇りに感じていただけるような取組を続けています。

参加者の声

スマート農業によるデータ管理などのイチゴの生産技術だけでなく、復興の過程で地元のベテランの方々から受け継いだ知恵や、地域の方々とのコミュニケーションが、山元町のいちご産業を支えていることがよく分かりました。(受講生)

株式会社 GRA (ジー・アール・エー)

申し込み方法	ホームページ (https://gra-inc.jp/contact/) から申し込み 所在地：宮城県亶理郡山元町山寺字桜堤47		
申し込み〆切	プログラム当日の2週間前まで		
所要時間	60分～90分/回 ※法人向けに3日間の研修あり (ミガキイチゴアカデミー)		
受入可能人数	1名～120名まで (120名を超える場合は要相談)		
年間受入人数	年間300人程度受け入れ	活動期間・時間	活動期間は平日9時～16時
休日	土日祝、年末年始	駐車場	あり (約100台、大型10台)
料金	1名～10名 55,000円 (税込み) 11名～20名 110,000円 (税込み) 21名～30名 165,000円 (税込み) 31名～60名 220,000円 (税込み) 61名～120名 330,000円 (税込み) ※120名以上の場合は要相談 ※学生の教育視察の場合は半額 ※イチゴ狩りのセット料金や旅行代理店向けの特典料金がある。詳細は問い合わせ。		
ホームページ	https://gra-inc.jp/		

気仙沼震災復興語り部ガイド (KESENNUMA BASE CAMP)

プログラム紹介

気仙沼市復興祈念公園や命のらせん階段（旧阿部家住宅）などを回りながら、語り部が震災を経験して学んだ命の大切さや災害への備えの重要性、海への眺望も確保した防災まちづくり等について話を聞くことができる。



学びのポイント

災害に遭っても海と生きることを選んだ話を聞き、防災意識を高めるとともに自然の恵みの大切さを学ぶことができる。



KESENNUMA BASE CAMP 提供

▲ガイドの様子

気仙沼震災復興語り部ガイド (KESENNUMA BASE CAMP)

申し込み方法	メール：k-paseo●k-macs.ne.jp 電話：090-6243-7246 (※受入などで電話に出ることができない場合は折り返し連絡を行う) 所在地：宮城県気仙沼市魚市場前4-5		
申し込み〆切	受入の3日前まで	所要時間	1時間～1日
受入可能人数	100人まで（目安）	年間受入人数	年間1,000人程度受入
活動期間・時間	10時～18時	休日	月・火曜日
駐車場	開催場所による	料金	要相談
ホームページ	https://kesenuma-kanko.jp/		

海に見える命の森（株式会社阿部長商店南三陸ホテル観洋）

プログラム紹介

震災の被害や経験した人の想いを知るだけでなく、その教訓を将来の災害に活かすために行われている、避難所体験や自炊体験、キャンプ場整備等の「備災」教育や森づくりのボランティア等を行うことができる。



海に見える命の森 HP

▲自炊やキャンプ体験ができる



学びのポイント

自然災害が起きた際に自分の命を自分で守るための備えを行う「備災」について、必要な知識と経験を蓄えることができる。

海に見える命の森（株式会社阿部長商店南三陸ホテル観洋）

申し込み方法	メール：umimori0311●wgmail.com 電話：0226-46-2442 所在地：宮城県本吉郡南三陸町黒崎 99-17 南三陸観洋内		
申し込み〆切	受入の30日前まで	所要時間	150分～ ※その他時間は要相談。
受入可能人数	5人～100人（目安）	年間受入人数	2025年は年間8,856人程度受入
活動期間・時間	通年 9時～17時	休日	なし
駐車場	ホテルの駐車場に駐車し、徒歩。 (山頂まで約15分)	料金	体験料お一人様@1,100円込 + 道具 レンタル@300円込
ホームページ	https://umimori2011.wixsite.com/mysite		

プログラム紹介

震災前の街並みや防災庁舎に迫りくる津波、すべて流された町が復興する過程を、住民の視点でありのままに写した写真を鑑賞しながら、シャッターを切ったときの葛藤や思いについて、撮影者自らが語ります。



学びのポイント

発災当初から復興を見守ってきた佐藤氏の写真を語りと併せて鑑賞することで、臨場感を持って震災を学ぶことができる。



南三陸観光 HP

▲佐藤信一氏による語りの様子

佐良スタジオ

申し込み方法	メール：saryoss46●oasis.ocn.ne.jp 電話・FAX：0226-28-9291 所在地：宮城県本吉郡南三陸町志津川五日町201-5 南三陸さんさん商店街内 B-1
申し込み〆切	受入の3日前まで 休日 火曜日
年間受入人数	写真展示館 年間2,500人
所要時間	写真展示館 10～15分程度 語り部 40～100分程度
受入可能人数	10～15名程度 1人～40名程度
活動期間・時間	10時～17時（最終受付16時30分） 9時～16時（最終受付15時）
駐車場	南三陸さんさん商店街 約200台（うち大型バス約5台） 料金 語り部代：5,000円 入館料は別途（一般200円）

プログラム紹介

科学的な視点とリアルな映像で津波の恐ろしさを伝える映像をはじめ、県内の震災伝承施設や語り部団体、地域の復興に関する取組などをパネルや映像を用いて紹介する。



学びのポイント

展示パネルや映像から、宮城県の被害の大きさや復興状況、津波から尊い命を守るための教訓等を学ぶことができる。



宮城県提供

▲みやぎ東日本大震災津波伝承館

みやぎ東日本大震災津波伝承館

申し込み方法	メール：miyagi-denshokan●311support.com 電話：0225-98-8081 所在地：宮城県石巻市南浜町2-1-56
申し込み〆切	来館予定日の5日前まで 所要時間 30分～60分程度
受入可能人数	40人程度まで（要相談） 年間受入人数 年間50,000人程度
活動期間・時間	通年 9時～17時 休日 月曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始（12/29～1/4）※ただし毎月11日は曜日・祝日に関わらず開館
駐車場	無料駐車場あり（大型バス：あり） 料金 無料
ホームページ	https://www.pref.miyagi.jp/site/denshokan/index.html

プログラム紹介

震災により様々な課題が生じた雄勝で、農林漁業等の一次産業や自然体験、地域の関係者へのヒアリング等を行い、地域で新たに実施するビジネスプランを考案するなど、自分たちで考えて動く研修を体験することができる。



日本経済研究所撮影

▲小学校を改修した施設で自然と生きる力を学ぶ



学びのポイント

自然に溢れた雄勝で暮らし、関係者の生の声を聞きながら、答えのないまちの未来の在り方について考えることができる。

MORIUMIUS

申し込み方法	メール：info●moriumius.jp 電話：0225-25-6506 所在地：宮城県石巻市雄勝町桑浜字桑浜60 予約サイト： https://moriumius-reservation.jp/moriumius/		
申し込み〆切	受入の30日前まで	所要時間	プログラムによる（例：1泊2日）
受入可能人数	10人～40人（目安）	年間受入人数	年間3,000人程度
活動期間・時間	通年 9:00～17:00	休日	なし
駐車場	あり 大型バス可	料金	プログラムによる
ホームページ	https://moriumius.jp/		

プログラム紹介

震災遺構の旧野蒜駅プラットホームや東松島市震災復興伝承館等を案内する「防災まち歩きフィールドワーク」や、災害時の避難生活の教訓を踏まえた「防災グッズ作り体験プログラム」などのプログラムを提供。



SAY'S 東松島提供

▲視察研修対応の様子



学びのポイント

東松島の震災遺構や、おさとうやま、野蒜海岸などのツアーガイドや語り部講話、また、災害時の備えをシミュレーションする防災グッズ作りの体験から、防災意識を高めることができる。

SAY'S 東松島

申し込み方法	メール：jbhng026●ybb.ne.jp ※原則メールでの連絡 電話：0225-98-7525 所在地：宮城県東松島市野蒜ヶ丘1-6-6		
申し込み〆切	受入の1ヶ月前までが目安 (1週間前でも対応可能な場合あり)	所要時間	60分、90分、120分など (内容により異なる／要相談)
受入可能人数	1人～40人程度（目安）を1名が担当	年間受入人数	年間1,500人程度
活動期間・時間	通年 9時～日没 ※夕食後に宿泊先への訪問も可能	休日	特になし
駐車場	待ち合わせ場所となる各施設の駐車場を利用		
料金	税込5,000円～7,000円 / 1回が目安。プログラムの組み合わせも可能なため、要相談。		
ホームページ	準備中		

JRフルーツパーク仙台あらはま

プログラム紹介

地域・企業・行政の連携により仙台市荒浜地区の集団移転跡地に整備された観光農園で、圃場見学や説明、農作業や収穫体験を組み合わせる震災復興・地域連携・農業振興をテーマとした視察・研修プログラム。



学びのポイント

被災地の土地利用転換や地域活性化の考え方、先端的農業経営による持続可能な産業づくりについて学ぶことができる。



JRフルーツパーク仙台あらはま提供

▲フィールドワークの様子

JRフルーツパーク仙台あらはま

申し込み方法	メール：fruit-farm●stbl.co.jp 電話：022-390-0770 所在地：宮城県仙台市若林区荒浜新2丁目17-1	所要時間	要相談
申し込み〆切	なし	年間受入人数	年間1,300人程度（2024年度）
受入可能人数	研修棟の着席可能人数は40名まで可	休日	火曜日
活動期間・時間	通年 10時～16時	料金	5名以下：1名当たり1,000円 6～10名：10,000円 10～20名：20,000円 21名以上：30,000円
駐車場	無料駐車場150台 (大型バス駐車場4台含む)	ホームページ	https://stbl-fruit-farm.jp/arahama/

せんだい3.11メモリアル交流館

プログラム紹介

交流館内に展示されている震災被害や復旧・復興の状況などを伝えるパネルや地図の解説を聞くことができる。



学びのポイント

周辺の「震災遺構仙台市立荒浜小学校」と連携しており、仙台における東日本大震災の被害や復興について学びを深めることができる。



せんだい3.11メモリアル交流館提供

▲せんだい3.11メモリアル交流館

せんだい3.11メモリアル交流館

申し込み方法	メール：office●sendai311-memorial.jp 電話：022-390-9022 所在地：宮城県仙台市若林区荒井字沓形85-4 地下鉄東西線荒井駅内	所要時間	30分～60分
申し込み〆切	なし	年間受入人数	年間5,000人程度（予約案内対応人数）
受入可能人数	最大40人程度	休日	月曜（祝日の場合は翌日） 祝日の翌日（土曜・日曜・祝日を除く）
活動期間・時間	通年 10時～17時	料金	無料
駐車場	なし（近隣に有料駐車場あり）	ホームページ	https://sendai311-memorial.jp/

津波復興祈念資料館 閑上の記憶

プログラム紹介

「東日本大震災」という一つの出来事を通じて、今を生活している子どもたちが「日常の大切さ」「いのちの大切さ」の気づきを得るための学習プログラム。オリジナルの映像資料や閑上住民が区内を案内します。



▲案内ガイドの様子



学びのポイント

「今の自分とかさなる、つなげる」学習するために、「知識・情報」だけではなく「体感」や「発見」につながる学習を目指します。

津波復興祈念資料館 閑上の記憶

申し込み方法	「閑上の記憶」ホームページよりフォーム入力若しくは、申込書送付		
問合せ先	メール：memoire.de.yuriage@gmail.com	F A X	022-738-9221
申し込み〆切	希望日の20日前まで	所要時間	30～90分
受入可能人数	閑上案内ガイド バス4台くらい	年間受入人数	年間2,000人程度
活動期間・時間	月火水金土：10時～15時 日祝：9時～15時	休日	木曜日 偶数月の第3日曜日午前中
駐車場	閑上港朝市駐車場	料金	5,000円～ ※詳細は HP 参照
ホームページ	https://tsunami-memorial.org/ ※プログラム料金：https://tsunami-memorial.org/program/		

一般社団法人 ふらむ名取（閑上震災を伝える会）

プログラム紹介

震災メモリアル公園（日和山・慰霊碑）や震災復興伝承館の周辺を巡り、地域の記憶が残る場所を訪ねながら、震災当時の状況や地域の復興の歩みについて、地元住民がガイドとして案内するまち歩きプログラム。



▲まちあるきのプログラム



学びのポイント

過去の津波を伝える石碑の存在から教訓継承の難しさを知るとともに、生活の再建に向けた地域の歩みを学ぶことができる。

一般社団法人 ふらむ名取（閑上震災を伝える会）

申し込み方法	メール：natorijapan@gmail.com 電話：090-3583-1359（一般社団法人 ふらむ名取 事務局） 所在地：宮城県名取市大手町5-6-1 名取市市民活動センター内 名取市観光物産協会 HP より、FAX・メールにて申し込む。		
申し込み〆切	受入の20日前まで	所要時間	・50分コース ・90分コース ※要相談
受入可能人数	1人～150人 バス3台まで	年間受入人数	年間2,055人程度受入（2026年）
活動期間・時間	夏期（4～10月）：9時～17時 冬期（11～3月）：10時～16時	休日	3月11日・名取市夏まつり開催日 10月第3日曜日 不定休・年末年始
駐車場	震災メモリアル公園内にあり ※公共交通機関を推奨	料金	ポイント案内(50分コース)：5,000円
ホームページ	https://www.framnatori.com/、https://framnatori.jimdofree.com/		

いわぬま震災語り部の会（千年希望の丘交流センター）

プログラム紹介

岩沼市の復興のシンボルである千年希望の丘相野釜公園内を語り部と一緒に歩き、慰霊碑や避難丘の説明を受けながら、岩沼市の震災当時の状況や、震災からの復興の歩み、「備えよ、常に！」という言葉が示す教訓を、現地ガイドを通じて学ぶことができる。



▲相野釜公園の避難丘



学びのポイント

津波の高さと同じ8メートルの慰霊碑の前で説明を受けたり、11メートルの避難丘へ登ることで津波の脅威を具体的に実感できる。

いわぬま震災語り部の会（千年希望の丘交流センター）

申し込み方法	メール：kouryu●city.iwanuma.miyagi.jp 所在地：宮城県岩沼市下野郷字浜177番地	電話／F A X：0223-23-8577
申し込み〆切	受入の7日前まで	所要時間 60～90分
受入可能人数	5人～30人（目安）	年間受入人数 年間500人程度受け入れ
活動期間・時間	通年 9時～17時	休日 毎週火曜日（火曜日が祝日の場合は翌日） 年末年始（12/26～1/7）
駐車場	普通車75台 （内2台は身障者用）、 大型バス専用2台あり	料金 ガイド1人につき3,000円
ホームページ	https://sennen-kibouno-oka.com/	

福島の次世代育成から社会人研修へ、そして教育旅行へ



あすびと福島提供

▲地元のロールモデルとの交流を通じた福島の次世代育成



あすびと福島提供

▲志とリーダーシップを高める社会人研修



あすびと福島提供

▲被災地を体感して自分に向き合う教育旅行

プログラム紹介

Program

❖ 社会人研修プログラム

2日間かけて、福島沿岸部被災地の現実に向き合い、地元リーダーたちと対話を重ねながら、自分や社会、仕事のありたい姿を深く内省し、志とリーダーシップを高める。

- ◇ 福島県沿岸部・被災地の現場を体感
- ◇ 自ら新たな価値創出に踏み出した地元リーダーとの対話
- ◇ 福島での経験を通じて、ありたい自分・社会・仕事、志・リーダーシップに向き合う

❖ 教育旅行プログラム

あすびと福島の次世代育成と社会人研修の2つのプログラムから県外の学生向けの教育旅行プログラムが作られた。プログラムは3点から構成され、県外の学生の学びの場となっている。

- ◇ 福島県沿岸部・被災地の影と光に向き合うフィールドワーク
- ◇ 志を持ち、未来へ歩んでいる地元のリーダーとの対話とワークショップ
- ◇ 自分と社会の未来に向き合うワークショップ

👉 学びのポイント



被災地を体感するツアーでは、福島県沿岸部の影と光を体感するとともに、困難ななかでも前に向かって進む力を感じることができる。

南相馬で新しい価値を創り出す志を持ったリーダーの訪問を通じて、志や熱量にふれることで、一人一人がモチベーションを上げるとともに、生き方や自分の将来への気づきにつなげることができる。

対話型ワークショップを通じて、自分自身のありたい姿を言語化し、発表することで、自身のありたい姿を実現しようとする行動につなげることができる。

あすびと福島・半谷栄寿さんのコメント

社会人研修と教育旅行の原点は福島の次世代育成にありますので、その志を共有させていただきます。

若い世代が地域の創生を担う“あすびと=明日を創る次世代人材たち”として成長することを目指し、2013年から今日まで、小中学生から高校生、大学生、若い社会人までのそれぞれの年代に合わせた成長の場づくりに取り組んでいます。プログラムは被災地の現実と自分と社会の未来からなり、500回を超え、参加した次世代は1万人以上となります。

この次世代から福島に新しい価値を創るフロントランナーが生まれ、その先輩に憧れ自分たちもそうなるろうとする「憧れの連鎖」により、福島に人材が輩出して新しい価値をつくっていく。すでに社会人として活躍している「あすびと福島」OB・OGもおり、フロントランナーの出現と憧れの連鎖の実現が期待されます。



あすびと福島提供

参加者の声

<社会人研修>

ここで出会った人々は、地震・津波・原発という三重の被災を受けながら、立場も肩書も関係なく、ピンチをチャンスとして捉え、マイナスからゼロ、ゼロからプラスを産むべく前進を続ける、真のリーダーたちでした。翻って自分とはいったい何者なのか。自分は、自社は何のために、誰のために存在しているのか。周囲のメンバーは、立場や肩書ではない自分の何に共感してくれるのだろうか。このように我と彼とに向き合っ内省し、リーダーシップの本質を深く考えた福島沿岸部での2日間は、私という一人の人間を大きく変えました。（社会人）

<教育旅行>

登壇された地元の方たちが力強く、楽しそうに話されている姿をみて、自分もやりたいことを早く見つけたいと強く感じました。（中学生）

被害を受け止め、前を向いて進んでいる地元の方々の姿勢に勇気づけられました。意見共有の時間では、自分にはない皆の考えに気づきをもらい、自分の視野、考えを広げることができた時間でした。（高校生）

一般社団法人 あすびと福島

申し込み方法	メール：info●asubito.or.jp 電話：0244-26-5623 FAX：0244-26-5624 所在地：福島県南相馬市原町区泉前向15	
申し込み〆切	実施の6ヶ月前程度	
活動期間・時間	通年 9時～17時30分	
休日	年末年始	
駐車場	あり	
所要時間	<社会人研修> 2日間プログラム	<教育旅行> 1.5日プログラム
受入可能人数	10人～20人程度	20人～30人程度
研修料金	詳細は要問合せ	
ホームページ	https://asubito.or.jp/	

OWB 株式会社 (旧 株式会社小高ワークスベース)



小高パイオニアヴィレッジ HP

▲和田代表による講演



内閣官房・内閣府総合サイト地方創生 HP

▲和田代表



内閣官房・内閣府総合サイト地方創生 HP

▲小高パイオニアヴィレッジ

プログラム紹介

Program

「どうせ若者は帰ってこない」と思われていた旧原発事故避難指示区域において、2051年までに100の事業をつくり上げ、地域の自立を実現させることを目標に、新たなビジネスを創出する取組

を行った結果、これまでに30のビジネスが創出され、「ゼロベースの起業をするなら小高がいい」と思う若者が増えた経緯について、話を聞くことができる。

学びのポイント



原子力災害からの復興に向けて、「地域の自立を実現させる」ために、新たな事業を計画する際には、「ここで事業を起こす意味があるかどうか」という視点から確認しているなど、地域課題をビジネスで解決する考え方やその方法論を学ぶことができる。

OWB・和田智行さんのコメント

弊社をはじめとする被災地の取り組みを、他の被災地の復興や、被災地よりも過酷な状況に陥っている地域の活性化に活かしていただきたいと考えています。

参加者の声

OWBの取組やノウハウは、地方創生の実現に向けて、学ぶべきポイントが多くあると感じました。
(社会人)

OWB 株式会社 (旧 株式会社小高ワークスベース)	
申し込み方法	メール：con●owb.jp 電話：0244-26-4665 所在地：福島県南相馬市小高区本町1-87 小高パイオニアヴィレッジ内
申し込み〆切	受入の7日前まで
所要時間	60分
受入可能人数	1~40人
年間受入人数	年間 500人程度受入
活動期間・時間	通年(平日) 10時~16時
休日	土・日曜・祝日、お盆、年末年始、他
駐車場	あり
料金	一般料金：1名あたり3,300円 10名以上は定額 33,000円 ※4名以下の場合も、一律13,200円 教育機関料金：1名あたり2,200円 10名以上は定額 22,000円 ※4名以下の場合も、一律8,800円 代表和田氏による登壇プランは、1回(60分)あたり55,000円 ※詳細はホームページを参照
その他	8名を超える場合は小高パイオニアヴィレッジの雑壇を活用 その場合は別途利用料として60分あたり4,400円が加算
ホームページ	https://owb.jp/

東日本大震災・原子力災害伝承館



日本経済研究所撮影

▲語り部講話の様子



東日本大震災・原子力災害伝承館 HP

▲施設外観



東日本大震災・原子力災害伝承館 HP

▲フィールドワーク

プログラム紹介

Program

被災した語り部が震災当時の不安や悲しみなどの想いに加え、災害に対する備えや復興への取組などを語る「研修語り部講話」や、伝承館が立地する双葉町と隣接する浪江町の被災現場をバスで訪

れ、被災と復興の現状を見ることができる「フィールドワーク」、展示見学や研修で感じたことを共有して考察を深める「ワークショップ」などを実施できる。

学びのポイント



館内の展示見学に加え、異なる立場で原発事故や避難に直面した方々の経験や当時の思い、そこから得られた教訓について話を聞き、実際に現場を見ることによって、福島県で起きた未曾有の複合災害の事実や復興状況について理解を深め、福島に残された課題に自分事として向き合うことができる。

東日本大震災・原子力災害伝承館・坂本久さん、廣畑希歩さんのコメント

当館では、学校団体や企業様向けの研修を通年で実施しており、インバウンド需要に対応するため、英語版のフィールドワークの受付も開始しました。積極的に参加いただき、皆様が当館での学びを持ち帰り、広げていくことを期待しています。

参加者の声

テレビで震災のことは学んでいたが、それでも福島のこと、原発のこと、震災のことをまだ全く知らなかったのだと実感した。
(社会人)

東日本大震災・原子力災害伝承館	
申し込み方法	伝承館 HP の予約フォームもしくは申込書のメール送付にて申し込み メール：densyokan-yoyaku@fipo.or.jp 電話：024-023-4402 所在地：福島県双葉郡双葉町大字中野字高田39
申し込み〆切	研修の予約は来館日の3週間前まで
所要時間	①展示見学：約60分 ②研修語り部講話：40分 ③フィールドワーク：60分 ④ワークショップ：60分 ※①は必須、②③は選択可。④は②③を実施した場合のみ選択可。
受入可能人数	原則20名以上対象
年間受入人数	2024年度実績 約14,000人
活動期間・時間	通年
休日	火曜日（火曜祝日の場合は翌平日）・年末年始（12/29～1/3）
駐車場	大型バス10台、普通車110台 無料
料金	（各プログラムにおける1人あたりの料金）大人1,000円 小中高500円 ※入館料、研修室使用料は別途 ※20名未満の場合は最低料金が必要（20,000円（大人）、10,000円（小中高））
ホームページ	https://www.fipo.or.jp/lore/

いわき震災伝承みらい館



日本経済研究所撮影

▲館内講話の様子



いわき震災伝承みらい館 HP

▲いわき震災伝承みらい館外観



いわき震災伝承みらい館 HP

▲研修の様子

プログラム紹介

Program

地震、津波だけでなく原発事故も起き、未曾有の複合災害に見舞われたいわき市における、東日本大震災の記憶や教訓について話を聞くことができるほか、現地にて行われたまちづくりや復旧・復興事業についても詳しく学ぶことができる。

過去にも津波の被害を受けた経験があったにも関わらず、「地震があれば津波が来る」ことが伝承されていなかったことで、多くの生命が失われた出来事について学ぶことで、伝えること、知っていることの大切さを実感することができる。

学びのポイント



過去に起こった津波被害の記憶が忘れられ、津波とは縁遠いところと人々が言い暮らしてきた海辺のまちが、突如襲ってきた大津波に驚き、なすすべなく薙ぎ払われ、多くの人命が失われた経過について、映像や語り部の話を辿り学ぶことで、災害伝承と防災の重要性を実感できる。

いわき震災伝承みらい館・高田悟さんのコメント

地震が起きたとき、津波が来て町が壊滅することを想像できた人は、いわきにほとんどいなかったと思います。災害はいつか必ず来るので、この震災を風化させずに、もし自分が遭遇したらどう動くかを前もって考えておくことが大切だと伝えていきます。

参加者の声

現場でしか得られない現実について学び、大切なことは、有事の際に何ができるか日頃から考え行動することだと感じた。
(大学生)

いわき震災伝承みらい館

申し込み方法	施設 HP から、申込書をダウンロードして、メールか FAX で送信して申し込み メール：info●memorial-iwaki.com 電話：0246-38-4894 FAX：0246-38-4895 所在地：福島県いわき市薄磯三丁目11
申し込み〆切	14日前まで
所要時間	・語り部講話のみ 60分程度 ※団体バスに同乗して行うガイドツアー ・施設見学+語り部講話 90分(要相談) ※教育旅行等による団体利用の見学プログラムは別途あり
受入可能人数	みらい館：展示室60名、多目的学習室：35名程度
年間受入人数	年間 36,000人程度
活動期間・時間	9時～17時(最終入館16時30分)
休日	月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)(月曜日が祝日の場合は翌平日)
駐車場	あり(普通車：32台、大型：2台)
料金	語り部1人につき1時間5,000円
その他	10名以上の団体での利用は事前予約が必要
ホームページ	https://memorial-iwaki.com/

相馬市観光協会

プログラム紹介

慰霊碑や伝承鎮魂祈念館の見学、震災語り部の講話に加え、地域の産業に触れる体験や、港湾建設事務所の屋上から堤防や防災緑地、高台移転した災害公営住宅等を見学するフィールドワークを組み合わせて提供する。



学びのポイント

震災・防災学習のほか、防災力が向上したまちづくりや地域の産業を担う人との対話を通して、復興を考えることができる。



相馬市観光協会 HP

▲震災・防災×探究学習の様子

相馬市観光協会

申し込み方法	メール：kanko●bb.soma.or.jp 電話：0244-35-3300 所在地：福島県相馬市中村北町55-1
申し込み〆切	受入の14日前まで
所要時間	約180分
受入可能人数	10人～100人（目安）
年間受入人数	年間2,600人程度
活動期間・時間	平日9時～17時
休日	観光協会：年末年始 ※復興視察ツアーは土日祝休み
駐車場	あり
料金	ガイド料： 震災・防災学習コースは1人につき1,000円 震災・テーマ別コースは1人につき2,000円 （詳細はHP参照）
ホームページ	https://soma-kanko.jp/education-tour/

浅野撚糸株式会社

プログラム紹介

岐阜に拠点を構える浅野撚糸が双葉町に工場を建てるまでの経緯や、双葉町長の熱い思い、決断した際の社長の覚悟等について、製造工程を見学しながら、壁面に描かれた会社の歴史とともに学ぶことができる。



学びのポイント

同社の歴史や経緯からピンチをチャンスと捉える考え方や、強い思いで周囲と協働することの大切さを学ぶことができる。



浅野撚糸株式会社 HP

▲双葉町への工場進出までを解説

浅野撚糸株式会社

申し込み方法	メール：info-futaba●asanen.co.jp ※広報担当（見学問合わせ） 電話：0240-23-7648 所在地：岐阜県安八郡安八町中875-1
申し込み〆切	受入の7日前まで
所要時間	40～70分
受入可能人数	10人～
年間受入人数	年間6,000人程度
活動期間・時間	10時～18時
休日	月曜日
駐車場	あり
料金	無料
ホームページ	https://asanen.co.jp/futabamaru/

NPO 法人 富岡町3・11を語る会

プログラム紹介

富岡駅周辺や沿岸部、夜ノ森地区、旧富岡商店街など各所を巡り、津波と原子力災害が町に与えた影響と、復旧・再生の歩みについて、帰還が始まった当時の写真も交えながら解説するフィールドワークプログラム。



復興庁パンフレット

▲フィールドワークの様子



学びのポイント

帰還が進む地域、除染・解体が進む地域、バリケードが残る地域を巡り、復興の姿となお残る課題を、語り人を通じて学ぶ。

NPO 法人 富岡町3・11を語る会

申し込み方法	メール：kataribe_office●tomioka311.com 電話：0240-23-5431 所在地：福島県双葉郡富岡町中央3丁目53番地 さくらモールとみおか内事務所1号		
申し込み〆切	受入の1週間前まで	所要時間	60～120分／日
受入可能人数	1人～無制限	年間受入人数	年間17,000人程度
活動期間・時間	平日 9時～17時 ※事務局営業時間	休日	語り部のスケジュールによる
駐車場	あり	料金	複数プランあり。詳細はHP参照。
ホームページ	https://www.tomioka311.com/kataribe_order.html https://x.com/tomioka311 https://www.facebook.com/kataribe.sakura		

東京電力廃炉資料館

プログラム紹介

福島で起きた原子力発電所事故に関する発災当時から現在に至るまでの詳細な記録と、東京電力の反省や教訓、廃炉の現状やこれからの道について、それぞれの展示を丁寧な解説とともに知ることができる。



日本経済研究所撮影

▲施設外観



学びのポイント

福島第一原子力発電所事故が起きた経緯を知り、その反省と教訓を未来に受け継ぐことの重要性を確認することができる。

東京電力廃炉資料館

申し込み方法	電話：0120-502-957 所在地：福島県双葉郡富岡町中央3丁目58番地		
申し込み〆切	受入の1週間前まで	所要時間	約60分
受入可能人数	～40人（条件あり） ※1回の案内における受入可能人数	年間受入人数	年間42,000人程度
活動期間・時間	通年 9時30分～16時30分 最終受付時間 16時	休日	毎月第3日曜日・年末年始
駐車場	あり	料金	無料
ホームページ	https://www.tepco.co.jp/fukushima_hq/decommissioning_ac/		

プログラム紹介

「震災から学ぶ in J ヴィレッジ」では、東日本大震災後、福島第一原子力発電所事故の収束対応の拠点となった経緯について、映像や壁面展示の解説から学ぶことができる。また、J ヴィレッジの天然芝の体験もできる。



▲ J ヴィレッジ



学びのポイント

J ヴィレッジにおいて地域とのつながりを大事にしながら復興の取組を進められてきた経緯などについて学ぶことができる。

株式会社 J ヴィレッジ

申し込み方法	メール：uneij-village.jp 電話：0240-26-0111 所在地：福島県広野町・檜葉町		
申し込み〆切	受入の7日前まで	所要時間	30分～60分
受入可能人数	対応可能人数 100人まで（目安）	年間受入人数	年間10,000人程度
活動期間・時間	通年 9時～18時	休日	
駐車場	あり（大型15台、普通車600台）	料金	要相談
ホームページ	https://j-village.jp/		

地域で活動する伝承団体

団体名	活動拠点	電話番号	メールアドレス/HP
久慈地下水族科学館もぐらんぴあ	岩手県久慈市	0194-75-3551	HP : www.moguranpia.com/
<p>ポイント さかなクンが応援団長を務める、トンネルを使った全国でも珍しい地下水族科学館。三陸の海を再現した水槽では、北限の海女の素潜り実演などを見学でき、震災の復興と歩みを伝える伝承施設としての展示もある。</p>			
特定非営利活動法人 遠野山・里・暮らしネットワーク	岩手県遠野市	0198-62-0601	tabisan●tono-yamasatonet.com
<p>ポイント 東日本大震災からの復興の過程で、沿岸被災地の後方支援として、災害公営住宅の住民を対象にした交流の場づくりの取組を実施した経緯や、後方支援のノウハウについて、講演を行っている。</p>			
岩泉観光ガイド協会	岩手県岩泉町	0194-22-5955	guide●iwaizumi-kankou.jp
<p>ポイント 被害を受けた岩泉町の小本津波防災センター、東日本大震災津波記念碑、小本川水門（全長221mの国内有数の規模）を見ながら津波の脅威や地域の復興の様子を学ぶ。過去の他災害や三陸ジオパークに関する解説についても併せて聞くことができる。</p>			
大船渡市防災学習館	岩手県大船渡市	0192-22-9833	ofu_bousai●city.ofunato.lg.jp
<p>ポイント 震災当時、避難所として使われた施設を一部改修し開館。過去の地震津波や東日本大震災の被害状況、震災当時の施設内での避難生活の様子等に関する話を聞き、避難や災害への備えの大切さを学ぶ。</p>			
大船渡市立博物館	岩手県大船渡市	0192-29-2161	ocm_info●city.ofunato.iwate.jp
<p>ポイント 明治29年、昭和8年の三陸地震津波、昭和35年のチリ地震津波、震災当時の写真や記録を展示。市民が撮影した映像、過去の津波の記録・教訓をまとめた映像コンテンツ「荒れ狂う海～津波常習地・大船渡～」を上映。津波とともに歩んできた大船渡の歴史を体感するとともに、防災意識の重要性を学ぶ。</p>			
一般社団法人 大船渡市観光物産協会	岩手県大船渡市	0192-21-6001	sanriku_ofunato●dolphin.ocn.ne.jp
<p>ポイント 災害の経験や教訓、避難生活、自然災害への備え等について、多面的な学びと伝承を促すための施設やガイド、防災と観光を組み合わせたアドベンチャーゲームなど各種プログラムをご利用できる。</p>			
大船渡市魚市場	岩手県大船渡市	0192-26-4112	ofmkanri●ofunato-fm.com
<p>ポイント 大船渡市魚市場は、震災で壊滅的な被害を受けたが、2011年5月に営業を再開。2014年に完成した新しい魚市場の3階には展示室があり、津波被害の状況や水産業の復興までの軌跡、大船渡を支える市場の役割を学ぶ。</p>			
東日本大震災津波伝承館 (いわて TSUNAMI メモリアル)	岩手県陸前高田市	0192-47-4455	AJ0007●pref.iwate.jp
<p>ポイント 東日本大震災津波伝承館では「命を守り、海と大地と共に生きる」を展示テーマに、東日本大震災津波の悲しみを二度とくり返さないために、津波の映像や写真、被災者の声や被災物の展示を通して、震災の事実と教訓を国内外及び次世代に伝承している。</p>			
特定非営利活動法人 桜ライン311	岩手県陸前高田市	0192-47-3399	info●sakura-line311.org
<p>ポイント 陸前高田市内の津波最大到達地点（総延長約170km）に、17,000本の桜を植樹するプロジェクト。津波到達地点に植えられた桜並木は、春には一斉に花を咲かせ、視覚的に「ここまで津波が来た」という教訓を学ぶ。</p>			

一般 社団法人 トナリノ	岩手県陸前高田市	0192-47-3287	info●tonarino.org
-----------------	----------	--------------	-------------------

ポイント 東日本大震災時に使用した応急仮設住宅の一部を活用し、陸前高田市が整備した体験宿泊施設（3.11仮設住宅体験館）では、施設の見学、宿泊研修、語り部から経験談を聞く体験ができる。ボランティアからの支援、コミュニティが復興を支えることの重要性を学ぶ。

一般 社団法人 陸前高田被災地語り部くぎこ屋	岩手県陸前高田市	0192-47-4299	akirakugiko7●gmail.com
---------------------------	----------	--------------	------------------------

ポイント 元ホテルマンで語り部ガイドの釘子さんが陸前高田市内の被災地や震災遺構、慰霊碑などを案内。震災当時の状況や避難行動、復興の歩み、津波の脅威や避難所運営など災害を「自分ごと」としてとらえる機会を得られる。

陸前高田市立博物館	岩手県陸前高田市	0192-54-4224	muse●city.rikuzentakata.iwate.jp
-----------	----------	--------------	----------------------------------

ポイント 被災した「市立博物館」と「海と貝のミュージアム」の2つの施設を嵩上げた土地に統合する形で整備。展示物の9割は津波により被災している。安定化処理を経た「陸前高田の漁撈用具」は国の重要有形民俗文化財の指定を受けている。陸前高田の津波の歴史、自然・歴史・文化を学ぶ。

一般 社団法人 ボランティア東北ファミリア	宮城県南三陸町	0226-36-2816	info●tohoku-familiar.com
--------------------------	---------	--------------	--------------------------

ポイント 関東方面から東北へのボランティアバスを定期的に運行し、被災地外の若者や社会人が東北の支援に参加できる仕組みを提供している。大学、高校の探求学習等の企画、企業への震災学習等も企画。劇団「ごきげん一家」とともに、南三陸町民から直接聞き取った生の声をもとに朗読劇を制作し、県内外で教訓を継承している。

一般 社団法人 南三陸ひと tomoni	宮城県南三陸町	090-4880-4510	mstppf2023●gmail.com
-------------------------	---------	---------------	----------------------

ポイント 「いのちを守ること、そして守り続けるため」の防災減災教育・災害伝承プログラム
①オーダーメイド語り部（学びたいテーマのリクエストに対応した語り部）
②農業体験を通じて命を学び防災意識を高めるプログラム等

一般 社団法人 健太いのちの教室	宮城県女川町及び全国	0229-55-2254	tamuken●ark.ocn.ne.jp
---------------------	------------	--------------	-----------------------

ポイント 企業管理下の中、津波により息子を亡くした経験を通じ、企業防災の在り方や命の大切さに関する情報発信・研修等を行っている。形式的な訓練ではなく、現場の意見を尊重し、主体的・実効的な事前の備えを行うことが従業員の命を守ることに繋がる。企業や組織におけるBCP（事業継続計画）の重要性を学ぶ。

石巻観光ボランティア協会	宮城県石巻市	0225-93-6448	manabi●i-kanko.com
--------------	--------	--------------	--------------------

ポイント 石巻市内の震災遺構や伝承施設を「車中案内」や「まち歩き」でご案内し、命の大切さの実感や防災意識の向上に繋げている。また、同時に、石巻市の歴史や文化についても学ぶことができる。

特定非営利 活動法人 放課後子どもクラブ Bremen	宮城県石巻市	0225-98-3095	bremen.ishinomaki●gmail.com
--------------------------------	--------	--------------	-----------------------------

ポイント 最大被災地に隣接する児童クラブとして毎年慰霊活動を継続。子どもの健全育成こそ最大の慰霊と捉え、将棋大会や自転車ライド、各種体験活動を通じ、津波復興祈念公園を舞台に地域交流と人間力の回復を図っている。

一般 社団法人 石巻震災伝承の会	宮城県石巻圏域	0225-98-8630	info●ishinomakiikou.net
---------------------	---------	--------------	-------------------------

ポイント 疑似体験型防災学習「ツナミリアル」は、震災当時の語り部の立場になり、どんな危険があり、どんな決断を迫られるか等を想像し、語り部の体験を学ぶワークショップ。災害を「自分ごと」として捉えることができる。

一般 社団法人 Bird's-eye	宮城県石巻市・塩竈市・多賀城市・七ヶ浜町・利府町	080-3198-3874	Jun1●river.ocn.ne.jp
-----------------------	--------------------------	---------------	----------------------

ポイント 東日本大震災で亡くなった当時6歳の少女の最期の場所に咲いていた花を各地で育て広げる活動を通して、命の大切さを伝える「アイリンブルプロジェクト」を中心に、平時からの地域連携と防災啓発、語り部活動、作品展示を行っている。

H.simple Design Studio 合同会社	宮城県仙台市	022-290-1330	info●h-simple.com
<p>▶ ポイント▶ 公営・民営の震災伝承施設整備に複数携わっている。展示企画から制作までを、空間デザインを含めてトータルに担当し、震災遺構「蒲生なかの郷愁館」においては開館後の運営も担っている。</p>			
HOPE FOR project	宮城県仙台市	—	contact●hopeforproject.org
<p>▶ ポイント▶ 毎年3月11日に荒浜小学校で開催する「HOPE FOR project」(2012～)のほか、元住民へのインタビュー映像『声を掬う』の制作・書籍化などを通じ、震災後を生きる人々の想いを伝える取り組みを行っている。</p>			
震災語り部の会「ワツタリ」(巨理町観光協会)	宮城県亶理町	0223-34-0513	info●datenawatari.jp
<p>▶ ポイント▶ 震災当時、津波で町の48%が浸水し、306名が亡くなった亶理町。震災を風化させまいと活動している語り部の経験から迅速な避難の重要性を学ぶとともに、防災・減災の意識を高める。</p>			
星降る古里ひろの	福島県福島市	080-1824-3382	k.s.07280822●gmail.com
<p>▶ ポイント▶ 広野町の一家の避難生活や日常の変化を描いた紙芝居を上演。実際に避難を経験した方々の声をもとにした作品で、リアルな体験を共有できる。災害時の行動や心構えを、物語を通じて学ぶことができる。</p>			
南相馬 原発・震災語り部の会	福島県南相馬市	090-2607-0701	oo2k3y52bs7k●asahinet.jp
<p>▶ ポイント▶ 東日本大震災と原子力災害を体験しての災害の状況と対応について伝える。特に原子力災害は現在においても避難が継続している。この体験で二度と原子力災害を起こさせないとの思いから語り部を可能な限り継続していく。</p>			
原発震災を語り継ぐ会	福島県南相馬市	090-5188-2540	wwinaiinaibar●yahoo.co.jp
<p>▶ ポイント▶ 「知らなかった」では済ませないほどの大きな出来事が起きた。東日本大震災は世界に類を見ない複合災害である。体験からなる証言は貴重で、そこから導かれる「生きる力」を語りの中から「知る」事で明日が変わるかもしれない。</p>			
合同会社ニコニコ菅野農園	福島県飯舘村	090-9637-9201	kuni●nico2farm.jp
<p>▶ ポイント▶ 飯舘村の地域資源である日本版ブルーベリーと言われているナツハゼ。原発事故で飯舘村は全村避難を余儀なくされたが、内閣府の事業採択を受け、農園を設立しナツハゼのジャムの商品化に成功した語り部から、震災前後の経緯やコミュニティ再生の取組について学ぶ。</p>			
大堀相馬焼協同組合	福島県浪江町	0240-35-4917	—
<p>▶ ポイント▶ 震災ですべての窯元が避難を余儀なくされたが、約半数の窯元が避難先で窯の再建を果たした。陶芸教室を実施し、職人の知恵と工夫、ものづくりの精神を体感できる。</p>			
浪江まち物語つたえ隊	福島県浪江町	090-9749-6189	hisai840●gmail.com
<p>▶ ポイント▶ 避難場所に指定されている学校から約1.5キロメートル離れた大平山に避難したことで、生徒全員が津波から逃げる事ができた請戸小学校の出来事について聞くことができる。</p>			
一般社団法人 双葉郡地域観光研究会	福島県双葉町	—	HP : https://f-discover.com/
<p>▶ ポイント▶ 双葉町を拠点に観光まちづくりを推進。語り部と連携し、震災の記憶と教訓を伝えるツアーを中心に、インバウンド教育旅行の受け入れを企画運営。地域の歩みと現場の今を国内外へ発信している。</p>			
いわき市観光物産センター(いわき・ら・ミュカ)	福島県いわき市	0246-92-3701	lalamew●helen.ocn.jp
<p>▶ ポイント▶ アクアマリンふくしまに近く小名浜港に面して海鮮市場、語り部など小名浜地区の震災の歴史と伝承が詰まった道の駅。2階にある「3.11いわきの東日本大震災展」では震災時にいわき市でおきたこと、2011年に生まれた赤ちゃんとその成長した姿をパネルなどで展示。</p>			

公益財団法人 ふくしま海洋科学館	福島県いわき市	0246-73-2525	amf●aquamarine.or.jp
-------------------------	---------	--------------	----------------------

ポイント▶ 9割の生物を失いながらも約4ヶ月でいち早く再オープンを果たした水族館の復興の経緯について説明を聞くことができる。

原子力災害考証館 furusato	福島県いわき市	080-7028-6128	furusatondm●gmail.com
--------------------------	---------	---------------	-----------------------

ポイント▶ 原子力災害の被害を知り、命とふるさとを繋ぐために必要なことを考える場としてオープン。町並みの変容、裁判、中間貯蔵問題等、草の根の人々の軌跡を展示。関連図書・資料多数。意見交換会やスタディツアーも実施。